

町内遺跡発掘調査報告書 V

平成 30 年 3 月

紫波町教育委員会

例 言

1 本書は、平成 27～29 年度実施した日詰西遺跡 第 1 次調査・杉の上Ⅲ遺跡 第 2 次調査及び、町内遺跡の有無確認（試掘調査）についての記録保存を目的とした緊急発掘調査に関する報告書である。

2 調査概要

・日詰西遺跡 第 1 次調査

調査事由 個人住宅新築工事に伴う緊急発掘調査

調査期間 平成 28 年 3 月 1 日～平成 28 年 3 月 16 日 調査面積 139.8㎡

・杉の上Ⅲ遺跡 第 2 次調査

調査事由 跨線人道橋の撤去に係る作業ヤード設置に伴う緊急発掘調査

調査期間 平成 29 年 7 月 17 日～平成 29 年 8 月 24 日 調査面積 857㎡

・町内遺跡の有無確認調査（試掘調査）

文化財保護法第 93 条 12 箇所、文化財保護法第 94 条 3 箇所

3 調査主体	紫波町教育委員会	教育長	侘美 淳
調査組織	紫波町教育委員会事務局	教育部長	石川 和広
	生涯学習課	課長	俵 正行
		室長	谷地 和也
		主任	岩館 岳
		主事	上方 雄理
		文化財専門員	鈴木 賢治
		文化財調査員	川村 均（平成 29 年度から）

※ 調査担当及び本書の執筆は鈴木 賢治・川村 均、編集は、鈴木 賢治が行った。

4 遺構の平面実測図および、座標測量は（株）プラス測量設計に委託した。

5 調査区全景（ドローンによる空撮）は、畠山写真館に委託した。

6 土層図は、堆積の仕方を重視し線の太さを使い分けた。土層層相の色相観察は、「新版標準土色帖 1998」小山・竹原著日本色研事業（株）を使用した。

7 本書に記載した地形図は、国土地理院発行の 5 万分の 1 日詰を使用した。

8 各遺構名と遺構記号は次の通り。

堅穴住居跡・堅穴状遺構—SI、溝跡—SD、土坑跡—SK、柱穴—P、不明遺構—SX

9 座標数値・標高数値	日詰西遺跡 第 1 次調査	基 -1	X=-49828.718	Y=28318.173
		基 -2	X=-49832.884	Y=28299.112
			H=103.142	
	杉の上Ⅲ遺跡 第 2 次調査	基 -1	X=-48052.600	Y=27915.527
		基 -2	X=-48097.510	Y=27901.389
			H=117.988	

10 発掘調査に伴う出土遺物及び諸記録は、紫波町教育委員会において保管している。

11 現場作業員及び室内整理作業員は、次の方々に参加・協力して頂いた。（五十音順・敬称略）

稲垣 淳子 打越 紀美恵 小澤 功子 川原 佳奈子 高橋 洸介 橋 孝子 松岡 好一
八重樫 ひとみ 吉田 千鶴子

目 次

例 言
目 次
本 目 次
挿図目次

表 目 次
写 真 目 次
抄 録

本 目 次

I 日詰西遺跡 第1次調査	1	II 杉の上Ⅲ遺跡 第2次調査	11
1 遺跡の環境	1	1 遺跡の環境	11
(1) 位置	1	(1) 位置	11
(2) 地形と地質	1	(2) 地形と地質	11
(3) 周辺の遺跡	2	(3) 周辺の遺跡	12
2 調査の概要	3	2 調査の概要	13
(1) 調査に至る経過	3	(1) 調査に至る経過	13
(2) 第1次調査の概要	3	(2) 第2次調査の概要	13
3 調査の成果	4	3 調査の成果	14
(1) 検出遺構	4	(1) 検出遺構	14
(2) 出土遺物	8	(2) 出土遺物	23
4 まとめ	10	4 まとめ	25
III 町内遺跡の有無確認(平成27～29年度試掘調査)	26		
文化財保護法第93条 試掘調査位置図・平面実測図①～⑥	27～32		
文化財保護法第94条 試掘調査位置図・平面実測図⑦～⑧	33～34		

挿 図 目 次

・日詰西遺跡 第1次調査

第1図 日詰西遺跡 第1次調査 位置図(1:50,000)	1
第2図 日詰西遺跡 周辺の主な遺跡位置図(1:25,000)	2
第3図 日詰西遺跡 第1次調査 遺構配置図(1:150)	3
第4図 SI-01 竪穴住居跡 平面図・断面図(1:50)	4
第5図 SI-02 竪穴状遺構 平面図・断面図(1:50)	5
第6図 SD-01 溝跡 平面図・断面図(1:100、1:50)、SK-01 土坑跡 平面図・断面図(1:50)	6
第7図 P01～P41 柱穴断面図(1:100)	8
第8図 出土遺物(1:2)	9

・杉の上Ⅲ遺跡 第2次調査

第1図	杉の上Ⅲ遺跡 第2次調査 位置図 (1:50,000)	11
第2図	杉の上Ⅲ遺跡 周辺的主要遺跡位置図 (1:40,000)	12
第3図	杉の上Ⅲ遺跡 第2次調査 遺構配置図 (1:300)	13
第4図	SI-01 竪穴住居跡 平面図・断面図 (1:100、1:60)	14
第5図	SK-01～SK-04 土坑跡 平面図・断面図 (1:50)	18
第6図	SK-05～SK-09 土坑跡 平面図・断面図 (1:50)	19
第7図	SK-10～SK-13 土坑跡 平面図・断面図 (1:50)	20
第8図	P01～P14 柱穴断面図 (1:50)	23
第9図	出土遺物 (1:2)	24

・遺跡の有無確認(平成27～29年度試掘調査)

第1図	町内遺跡有無確認 試掘調査位置図 (1:40,000)	26
-----	-----------------------------	----

表 目 次

・日詰西遺跡 第1次調査

表1	日詰西遺跡 周辺的主要遺跡一覧表	2
表2	SI-01 竪穴住居跡、SI-02 竪穴状遺構、SD-01 溝跡、SK-01 土坑跡 埋土注記一覧表	7
表3	出土遺物一覧表	8

・杉の上Ⅲ遺跡 第2次調査

表1	杉の上Ⅲ遺跡 周辺的主要遺跡一覧表	12
表2	SK-01～SK-08 土坑跡 埋土注記一覧表	21
表3	SK-09～SK-13 土坑跡 埋土注記一覧表	22
表4	出土遺物一覧表	23

写 真 目 次

第1図版	日詰西遺跡 第1次調査 調査区全景(空撮)
第2図版	日詰西遺跡 第1次調査 SI-01 竪穴住居跡、SI-02 竪穴状遺構、SD-01 溝跡検出状況
第3図版	杉の上Ⅲ遺跡 第2次調査 調査区全景(空撮)
第4図版	杉の上Ⅲ遺跡 第2次調査 SI-01 竪穴住居跡、SK-09・SK-12 土坑跡遺物出土状況
第5図版	出土遺物
第6図版	文化財保護法第93条 試掘調査状況①
第7図版	文化財保護法第93条 試掘調査状況②
第8図版	文化財保護法第94条 試掘調査状況③

I 日詰西遺跡 第1次調査

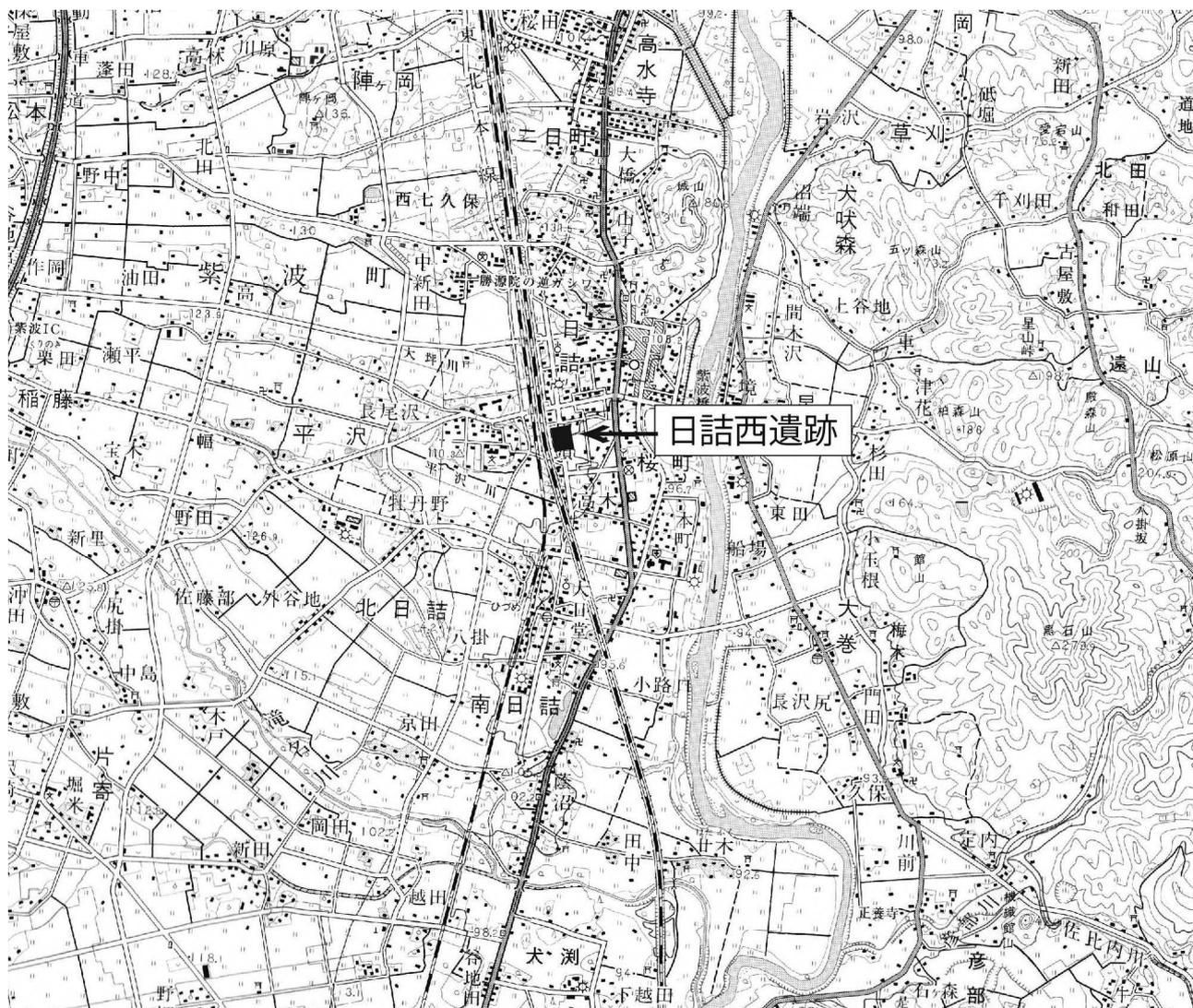
1 遺跡の環境

(1) 位置

本遺跡は、JR 東北本線紫波中央駅から南に約 0.5km、岩手県紫波郡紫波町日詰西四丁目に位置する。遺跡範囲は南北に約 40m、東西に 70m と推測される。

(2) 地形と地質

本遺跡の東側約 1km には、紫波町の中央を縦断するように北上川が南流する。平地は、西側一帯の奥羽山脈から流れ出て北上川に注ぐ滝名川・大坪川・五内川等の中小河川群によって、広く扇状地や氾濫低地が形成されている。北上川中流域西側の扇状地性段丘は、西根段丘・村崎野段丘・金ヶ崎段丘と大きく三分類されるが、紫波町内に相当するものとして、石鳥谷段丘・二枚橋段丘・都南段丘と命名された段丘群が知られている。



第1図 日詰西遺跡 第1次調査 位置図 (1:50,000)

(3) 周辺の遺跡

本遺跡の北に西裏遺跡、西に田頭遺跡・平沢松田Ⅲ遺跡、南に才土地遺跡・桜町田頭遺跡などが所在する。また、紫波町内には、県指定史跡である川原毛瓦窯跡、舟久保洞窟、町指定史跡である陣ヶ岡陣営跡、樋爪館跡、高水寺城跡など貴重な遺跡が多く存在する。

番号	遺跡名	所在地	種別	遺構・遺物
1	日詰下丸森	日詰字下野沢	散布地・古代	土師器、須恵器
2	桜町下野沢	桜町字下野沢、紫波中央駅前二丁目	散布地・古代	土師器
3	日詰下野沢	日詰字下野沢	散布地・古代	土師器
4	西裏	日詰字牡丹野	散布地・古代	土師器、須恵器
5	桜町中桜Ⅰ	桜町字中桜	散布地・縄文・古代	縄文土器、石器、土師器、須恵器
6	日詰牡丹野	桜町字中桜	散布地・古代	土師器、須恵器
7	平沢松田Ⅲ	桜町字中桜	散布地・古代	土師器、須恵器
8	平沢松田	平沢字松田、平沢字長尾沢	散布地・古代	土師器、須恵器
9	田頭	桜町字田頭	散布地・縄文・古代	縄文土器、石器、土師器、須恵器
10	桜町田頭	桜町字高木	散布地・古代	土師器、須恵器
11	才土地	桜町字才土地	集落・古代・中世	土師器、須恵器、陶器

表1 日詰西遺跡 周辺の主な遺跡一覧表



第2図 日詰西遺跡 周辺の主な遺跡位置図 (1:25,000)

2 調査の概要

(1) 調査に至る経過

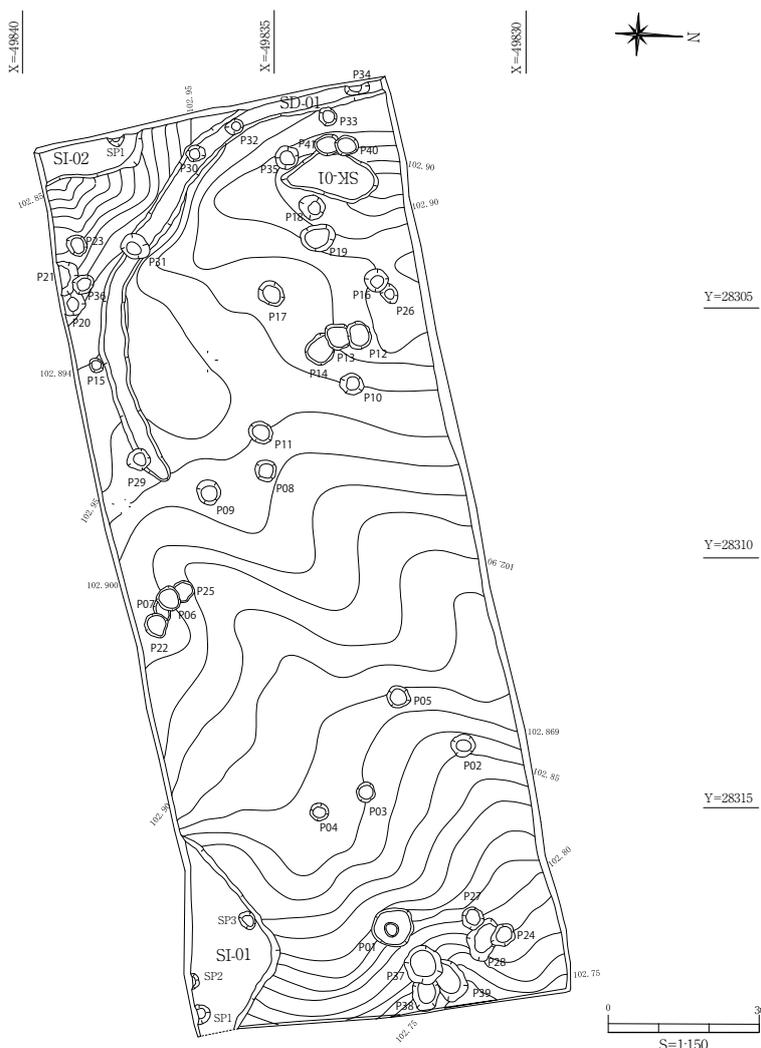
個人住宅新築工事に伴い、その敷地内に日詰西遺跡が存在することから、発掘調査を実施することとなったものである。建築主から平成28年2月23日付けで、文化財保護法第93条第1項による埋蔵文化財発掘届の提出があり、平成28年2月25日付けで、岩手県教育委員会から工事着手前の試掘調査の通知があった。その後、建築主の依頼を受けて、平成28年3月1日に試掘調査を実施した。調査の結果、遺構等が確認されたため、同日付で記録保存（緊急発掘調査）に着手した。

(2) 第1次調査の概要

位置 国道4号から西に約400m、盛岡南ショッピングセンター NACS の北西約150m に位置し、南北7.6m・東西18.4mの範囲を調査した。

検出遺構 SI-01 竪穴住居跡1棟・SI-02 竪穴状遺構1棟、SD-01 溝跡1条、SK-01 土坑跡1基、P01～P41 柱穴41口である。

出土遺物 土師器 坏・あかやき土器 甕、須恵器 甕、その他。



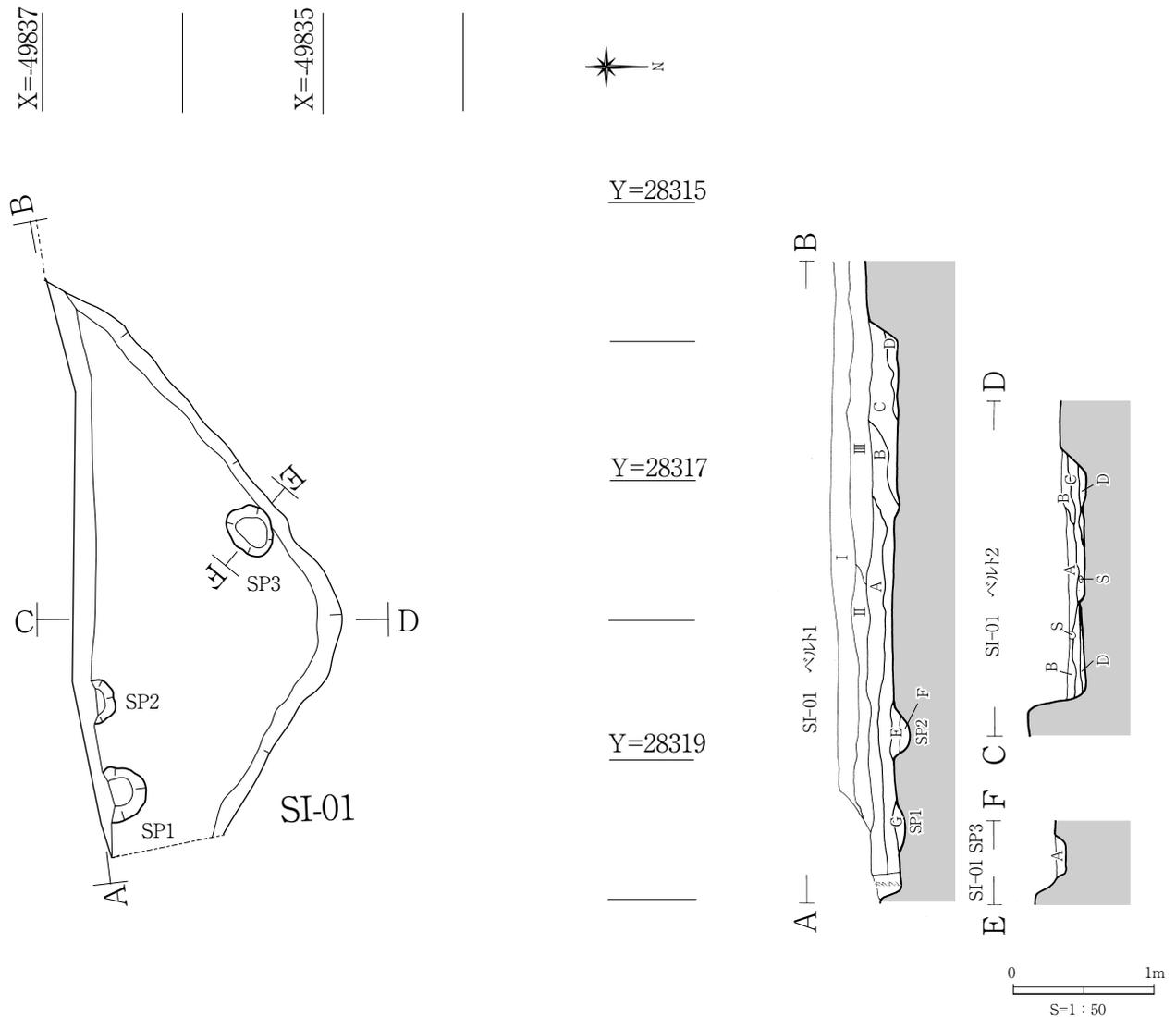
第3図 日詰西遺跡 第1次調査 遺構配置図 (1:150)

3 調査の成果

(1) 検出遺構

SI-01 竪穴住居跡 (第4図)

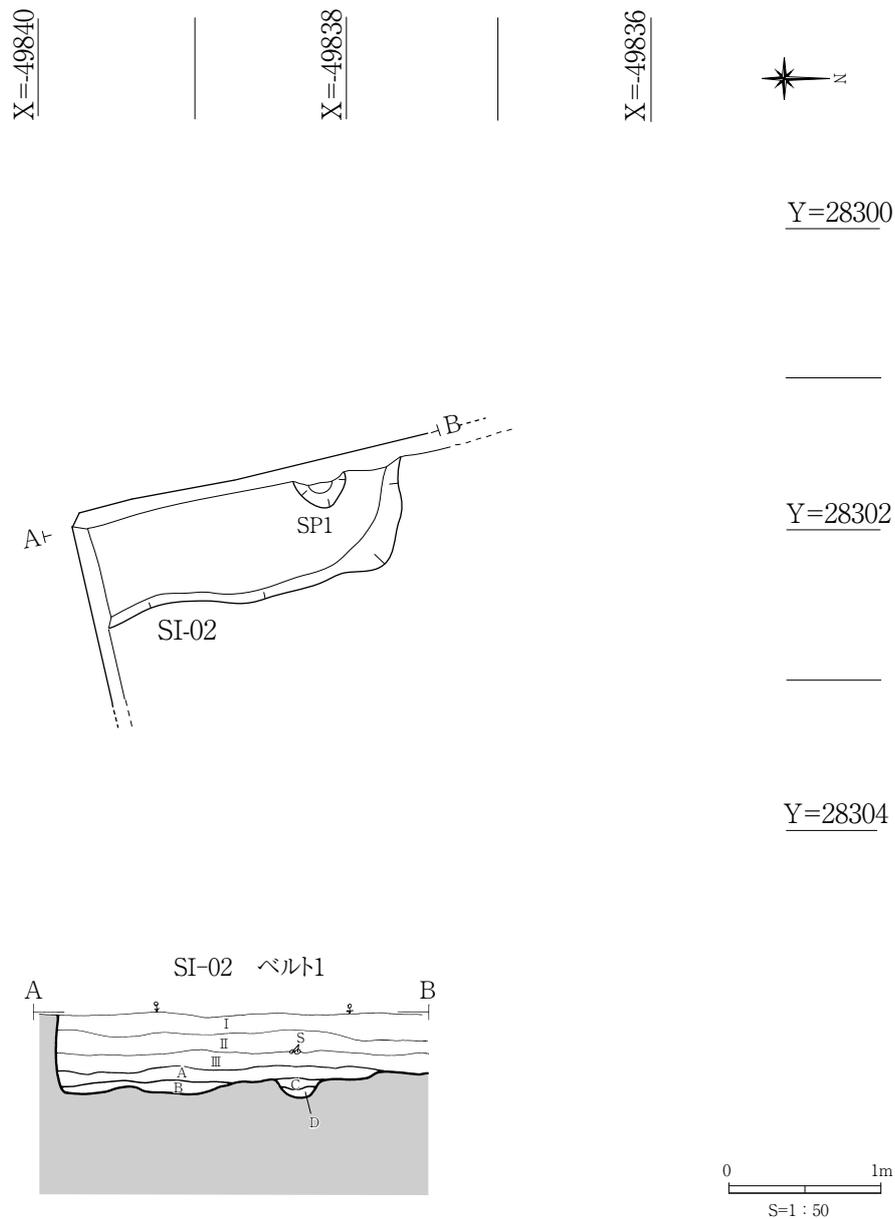
位置	調査区南東隅	平面形	隅丸方形	重複関係	なし
検出面	褐色シルト層上面	掘込面	削平	主軸方向	S47° W
規模	上端 4.5m 以上、下端 4.1m 以上。検出面から床面までの深さは 0.12m ~ 0.18m をはかる。				
埋土	A層～D層に大別される。A層は黒色土、B層は黒褐色土、C層は暗褐色土、D層は明黄褐色土を主体とする。				
壁の状況	壁は外傾して立ち上がる。	カマド	不明	床の状況	ほぼ平坦
柱穴	床面から3口検出。SP1～SP3で、規模は上端0.32m～0.41m、下端0.19m～0.24m、深さは0.08m～0.16mをはかる。				
出土遺物	土師器 坏				



第4図 SI-01 竪穴住居跡 平面図・断面図 (1:50)

SI-02 豎穴状遺構 (第5図)

位置	調査区南西隅	平面形	隅丸方形	重複関係	なし
検出面	褐色シルト層上面	掘込面	削平	主軸方向	N18° W
規模	上端 3.1m 以上。下端 2.6m 以上。検出面から床面までの深さは 0.12m ~ 0.18m をはかる。				
埋土	A層~B層に大別される。A層は黒色土、B層は暗褐色土を主体とする。				
壁の状況	壁は外傾して立ち上がる。	カマド	不明	床の状況	ほぼ平坦
柱穴	床面から1口検出。SP1で規模は上端 0.33m、下端 0.18m、深さは 0.13m をはかる。				
出土遺物	なし				



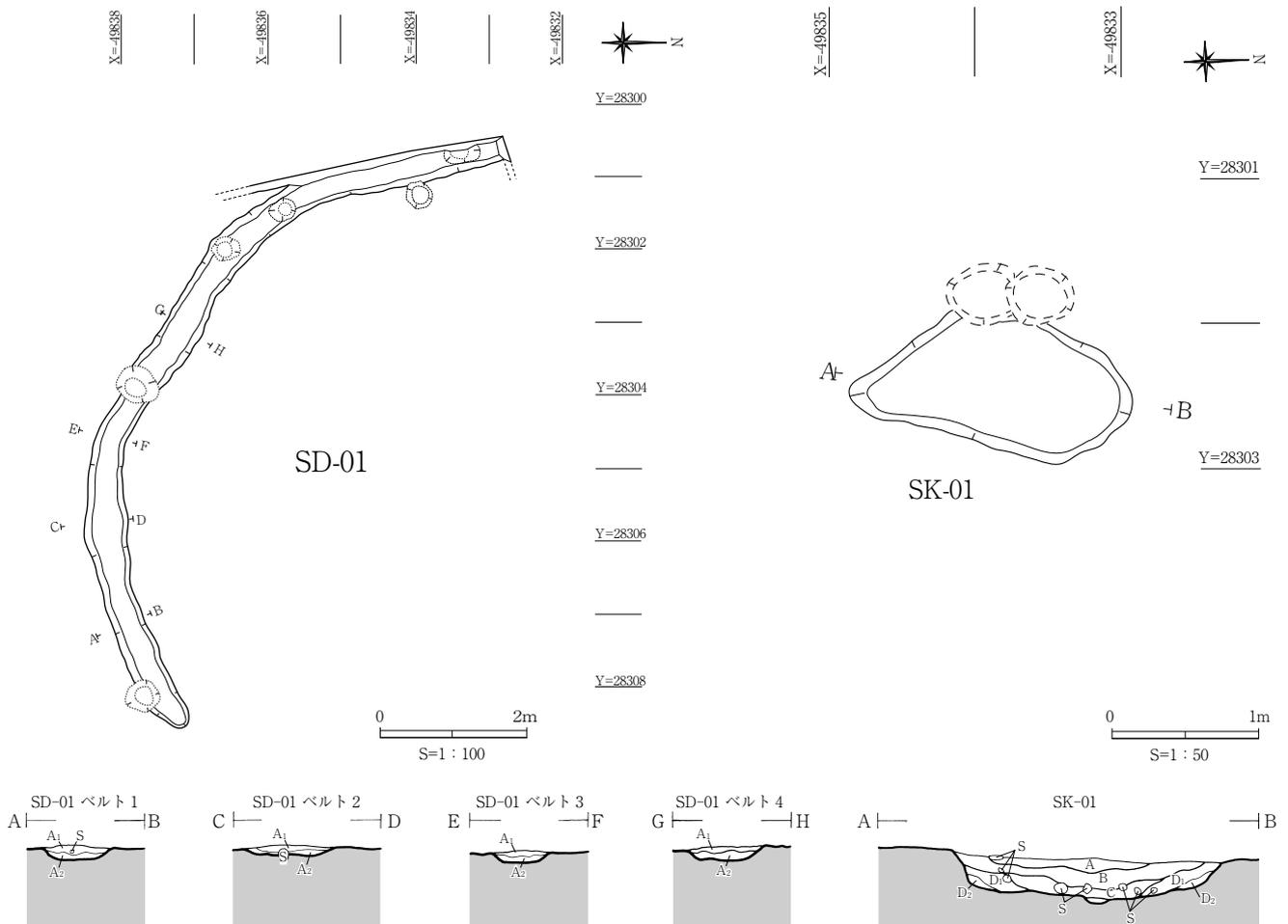
第5図 SI-02 豎穴状遺構 平面図・断面図 (1:50)

SD-01 溝跡 (第6図)

位置 調査区西側 平面形 弧状形 重複関係 柱穴に切られる
 検出面 褐色シルト層上面 掘込面 削平
 規模 上端 3.1m 以上、下端 2.6m 以上。検出面から床面までの深さは 0.12m ~ 0.18m をはかる。
 埋土 A層で2層に細分する。A層は黒色土を主体とする。
 壁の状況 緩やかに外傾して立ち上がる。 底面の状況 ほぼ平坦
 出土遺物 なし

SK-01 土坑跡 (第6図)

位置 調査区北西側 平面形 不整楕円形 重複関係 柱穴に切られる
 検出面 褐色シルト層上面 掘込面 削平 長軸方向 N4° W
 規模 上端 0.94m ~ 1.84m、下端 0.82m ~ 1.63m をはかる。検出面から床面までの深さは 0.19m ~ 0.36m をはかる。
 埋土 A層~D層に大別される。A層は黒色土、B層は黒褐色土、C層はにぶい黄褐色土を主体とする。
 壁の状況 緩やかに外傾して立ち上がる。 底面の状況 ほぼ平坦
 出土遺物 なし



第6図 SD-01 遺跡・SK-01 土坑跡 平面図・断面図 (SD-01 平面図 1 : 100・断面図 1 : 50、SK-01 1 : 50)

SI-01 竪穴住居跡

I 層	現代の表土
II 層	現代の耕作土
III 層	近世の盛土
A 層	黒色土を主体に、暗褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C 層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D 層	明黄褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

SI-01 竪穴住居内柱穴 SP1

G 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
-----	----------------------------

SI-01 竪穴住居内柱穴 SP2

E 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
F 層	褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

SI-01 竪穴住居内柱穴 SP3

A 層	褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
-----	----------------------------

SI-02 竪穴状遺構

I 層	現代の表土
II 層	現代の耕作土
III 層	近世～近代の盛土
A 層	黒色土を主体に、黄橙色土を粒状～塊状に締まりは中。
B 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

SI-02 竪穴状遺構内柱穴 SP-1

C 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D 層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

SD-01 溝跡

A1 層	黒色土を主体に、暗褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
A2 層	黒色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

SK-01 土坑跡

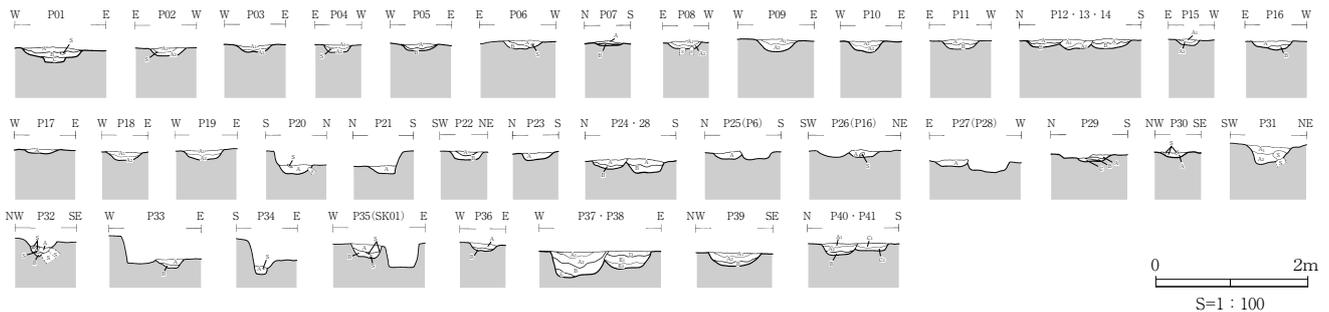
A 層	黒色土を主体に、暗褐色土を粒状～塊状に締まりは硬。
B 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C 層	にぶい黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D1 層	黄褐色土を主体に、暗褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D2 層	黄褐色土を主体に、黒褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

表2 SI-01 竪穴住居跡、SI-02 竪穴状遺構、SD-01 溝跡、SK-01 土坑跡 埋土注記一覧表

P01～P41 柱穴 (第7図)

柱穴は41口検出した。また、埋土観察の結果、明確な柱痕跡を残すものは無かった。各柱穴の深さは次の通りである

- P01-0.20m P02-0.11m P03-0.09m P04-0.10m P05-0.10m P06-0.11m P07-0.07m P08-0.11m P09-0.11m
- P10-0.16m P11-0.15m P12-0.11m P13-0.11m P14-0.14m P15-0.09m P16-0.11m P17-0.07m P18-0.12m
- P19-0.12m P20-0.13m P21-0.13m P22-0.10m P23-0.09m P24-0.10m P25-0.12m P26-0.09m P27-0.10m
- P28-0.13m P29-0.10m P30-0.06m P31-0.24m P32-0.24m P33-0.15m P34-0.12m P35-0.16m P36-0.11m
- P37-0.29m P38-0.23m P39-0.18m P40-0.15m P41-0.11m



第7図 P01～P41 柱穴断面図 (1:100)

(2) 出土遺物 (第8図)

今回の調査であかやき土器 甕、土師器 坏、須恵器 甕、その他コンテナ 1/2 箱が出土した。その内、実測可能な出土遺物4点を図化し掲載した。

1) 土師器 坏

検出面から1点で体～底部。1は回転糸切無調整である。口縁部から体部上半を欠く。底面にスノコ痕が認められる。内面黒色処理を施し、内面ヘラミガキ、外面ヘラナデ・ヘラケズリを施す。

2) 高台付 坏

検出面から1点で高台部。2は高台付 坏の高台部で断面形は逆台形状を呈する。規模は直径8.2cm、高さ1.4cm、内外面ヨコナデを施す。

3) あかやき土器 甕

検出面から1点で口縁部。3はロクロ形成の甕である。内外面ヨコナデを施す。

4) 須恵器 甕

検出面から1点で体～底部。1は回転糸切後に再調整を施している。規模は底径12.2cmをはかる。内外面カキメ・内面底部付近にヘラナデ・外面下端部にヘラケズリを施す。

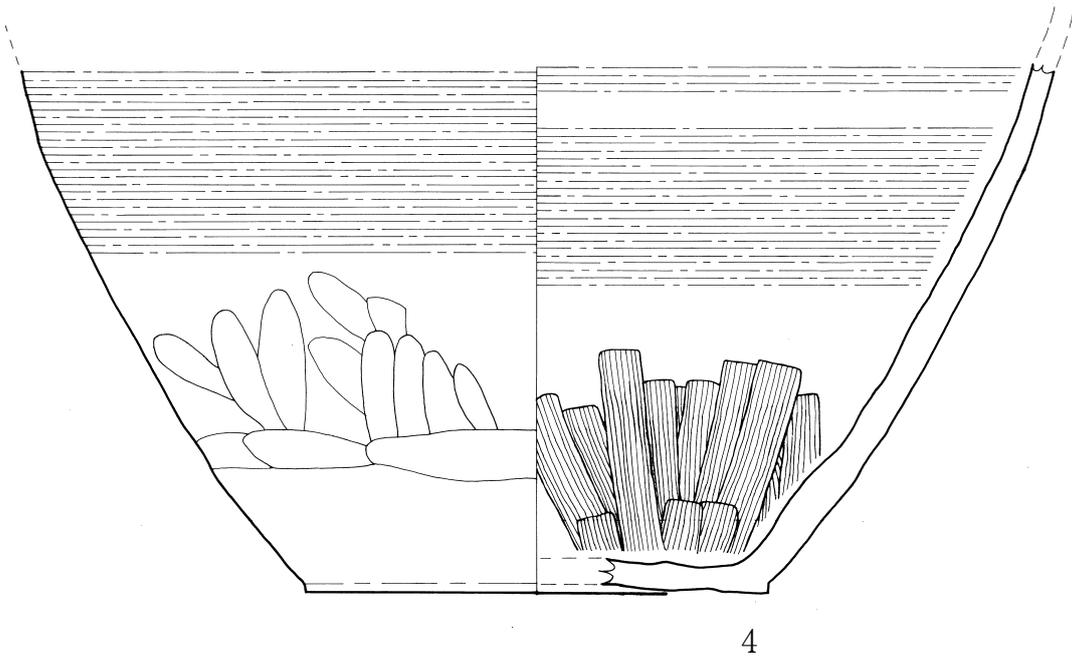
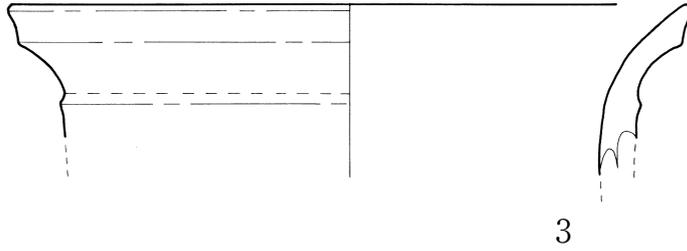
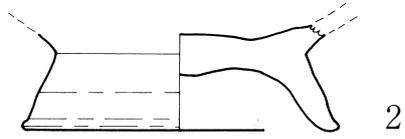
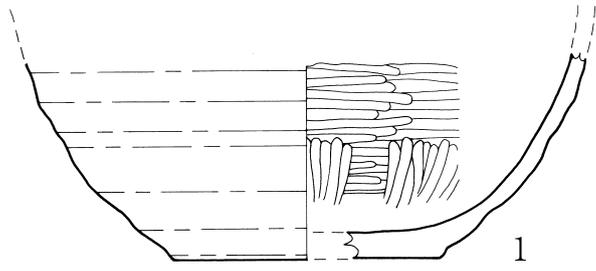
土師器・あかやき土器

番号	遺構名	出土位置	器種名	口径	底径	器高	残存率	備考
				(cm)	(cm)	(cm)	(%)	
1	—	検出面	坏	—	5.2以上	7.1	65	体～底部。回転糸切無調整。内面内黒ヘラミガキ。
2	—	検出面	高台付坏	—	8.2	—	10	高台部分。逆台形状。
3	—	検出面	あかやき甕	17.7	—	4.6以上	5	口～体部。口縁ヨコナデ。

須恵器

番号	遺構名	出土位置	器種名	口径	底径	器高	残存率	備考
				(cm)	(cm)	(cm)	(%)	
4	—	検出面	甕	—	12.2	14.2以上	30	体～底部。内外面カキメ。体部下端ヘラケズリ。

表3 出土遺物一覧表



第8図 出土遺物 (1:2)

4 まとめ

日詰西遺跡第1次調査では、竪穴住居跡1棟、竪穴状遺構1棟、溝跡（円形周溝）1条、土坑跡1基、柱穴41口を検出した。遺物は、あかやき土器 甕、土師器 坏、須恵器 甕などを発見したが、ほとんどが検出面からのものである。

・竪穴住居跡

SI-01は調査区南東隅から検出された。隅丸方形の竪穴住居跡である。遺構の上層は後世により削平されている。また、遺構が調査区外に延びているため、全体の約1/3が残存する。一辺約3.5m以上をはかり、規模は中型に分類される。埋土状況はA層からD層の4層に大別される。カマドは調査区外で確認できなかったが、南側か西側に構築されていたと推測される。

・竪穴状遺構

SI-02は調査区南西隅から検出された。隅丸方形の竪穴状遺構である。遺構の上層は後世により削平されている。また、遺構が調査区外に延びているため、全体の約1/5残存する。規模は一辺約2.2m以上をはかり、中型に分類される。埋土状況はA層からB層の2層に大別される。今回の調査では明確な使用目的は分からないが、おそらく倉庫及び作業部屋のような施設の可能性が高いと推測される。

・土坑跡

SK-01は調査区北西側から検出された。形状は不整楕円形で簡素な素掘りである。なお、時代及びどのような性格を持った土坑跡なのかは不明である。

・溝跡

SD-01は調査区西側から検出された。弧状を呈す溝跡である。遺構の埋葬施設及び墳丘は後世の削平により確認はできなかったが、溝跡は埋葬施設より掘削深度が深かったため、残存したと考えられる。また、溝の延長が北側調査区外に円を描くように伸びていると推定され、直径を推測すると約10mの馬蹄形状で開口部を有する円形周溝になる可能性が非常に高いと考えられる。

日詰西遺跡は平成27年に発見された遺跡で、今回が初の発掘調査になった。後世の削平により遺構の残りは良くはなかった。しかし、遺構は竪穴住居跡・竪穴状遺構・溝跡などが検出され、出土遺物等から平安時代と推測される。また、当遺跡の北の方には西裏遺跡、西の方には田頭遺跡など平安時代の集落跡の遺跡が所在している。これらの遺跡との関係性はどうか、今回、円形周溝と推測される遺構が検出されたが、どのような配置で構築され広がりをもつのか、また、集落の様相を知るには、今後の調査事例の蓄積が重要になる。

〈引用・参考文献〉

- 1972 紫波町 「紫波町史」 第1巻
- 1978 岩手県教育委員会 「東北新幹線関係埋蔵文化財報告書-Ⅲ-
- 1999 盛岡市教育委員会 「前野遺跡 一浅岸地区区画整理事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅰ」
- 2006 盛岡市教育委員会 「盛岡市内遺跡群 宿田遺跡」
- 2008 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 「飯岡才川遺跡第12次発掘調査報告書」
- 2014 学校法人紫波学園 紫波町教育委員会 「比爪館 第31・32次発掘調査報告書」
- 2015 紫波町教育委員会 「町内遺跡発掘調査報告書Ⅳ」

II 杉の上Ⅲ遺跡第2次調査

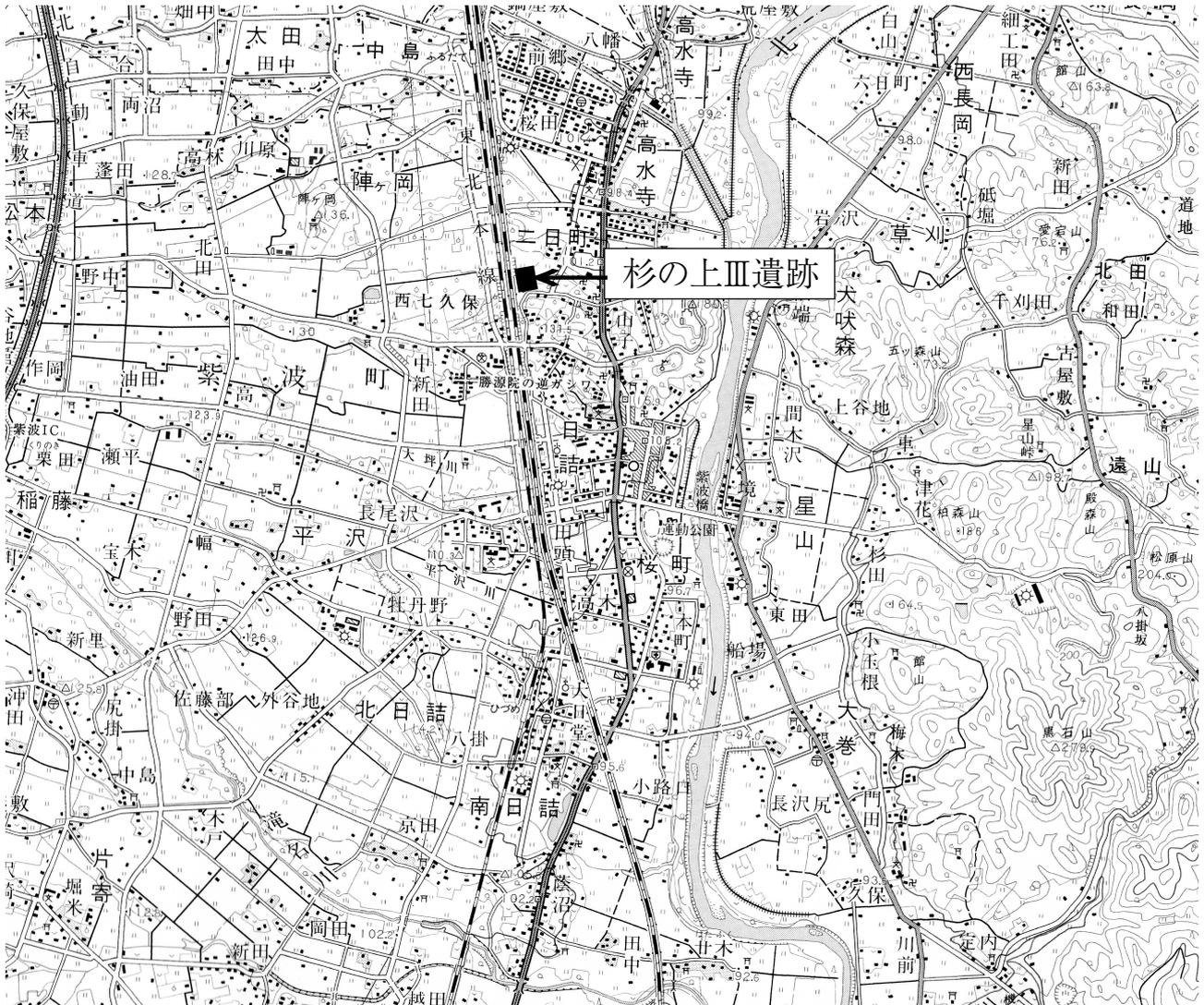
1 遺跡の環境

(1) 位置

本遺跡は、JR 東北本線紫波中央駅から北に約 1.3km、国道 4 号から西に 650m、岩手県紫波郡紫波町二日町字北七久保地内に位置する。遺跡範囲は東西約 550m、南北約 380m と推測される。

(2) 地形と地質

本遺跡の東側約 1.6km には、紫波町の中央を縦断するように北上川が南流する。本遺跡附近には高位段丘（西根段丘）面に相当する石鳥谷段丘が残片的に分布し、さらにその周辺に中位段丘（二枚橋段丘）が見られる。本遺跡は高位段丘とその北側に広がる中位段丘の接する地点の中位段丘南縁にある。



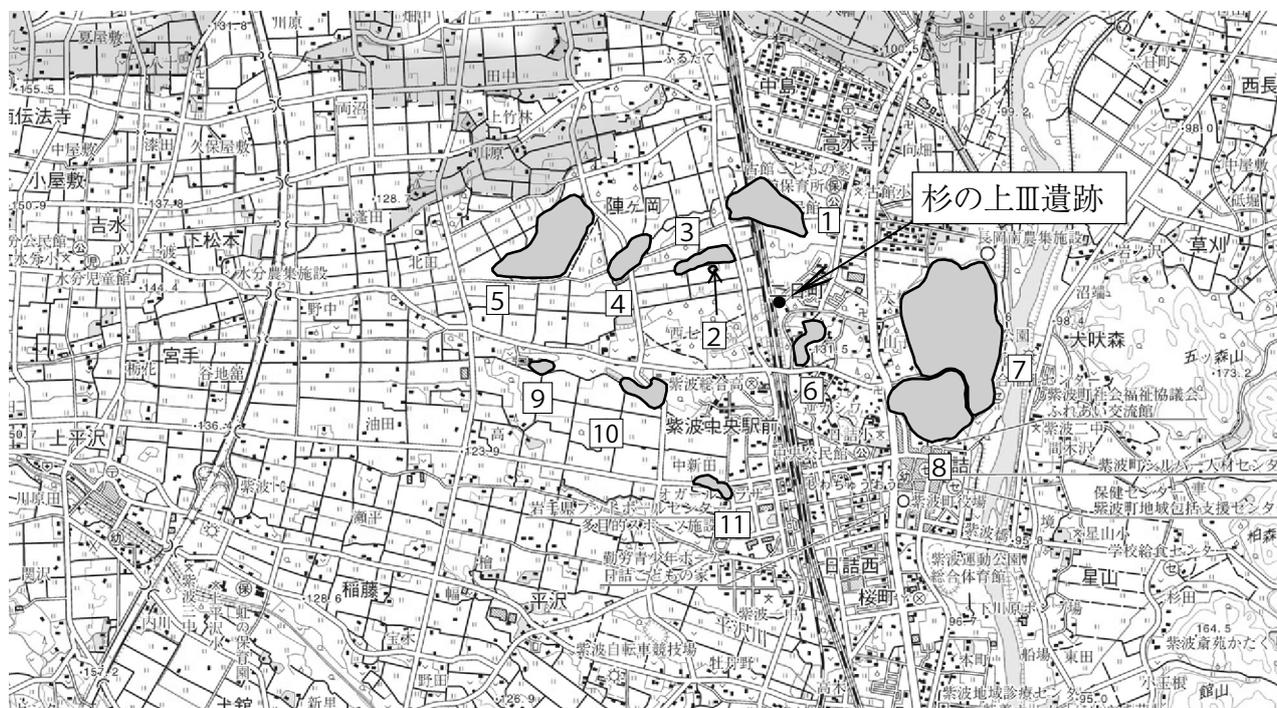
第1図 杉の上Ⅲ遺跡 第2次調査 位置図 (1:50,000)

(3) 周辺の遺跡

本遺跡の北に川原毛瓦窯跡、西に日詰七久保遺跡、東に高水寺城（郡山城）跡、南に善念寺山遺跡などが所在する。また、紫波町内には県指定史跡である川原毛瓦窯跡・舟久保洞窟、町指定史跡である陣ヶ岡陣営跡、樋爪館跡、高水寺城跡など貴重な遺跡が存在する。

番号	遺跡名	所在地	種別	遺構・遺物
1	杉の上Ⅱ	二日町字栗木田	集落跡・古代	土師器、須恵器
2	川原毛瓦窯跡	二日町字川原毛	窯跡・近世	瓦・陶器
3	川原毛	二日町字川原毛	集落跡・古代	土師器、須恵器
4	平坊Ⅲ	陣ヶ岡字平坊	集落跡・古代	土師器
5	陣ヶ岡	宮手字陣ヶ岡、陣ヶ岡字平坊	散布地・中世城館	縄文土器、土師器、須恵器
6	善念寺山	二日町字北七久保	散布地・縄文	縄文土器、石器
7	高水寺城 (郡山城)	二日町字古館	城館跡・中世	郭、空堀、土塁、井戸、陶磁器
8	吉兵衛館	二日町字向山	城館跡・近世	陶磁器
9	宮手追分Ⅲ	宮手字追分	散布地・古代	土師器、須恵器
10	日詰七久保	日詰字七久保	散布地・古代	須恵器
11	桜町下野沢	桜町字下野沢、紫波中央駅前二丁目	散布地・古代	土師器

表1 杉の上Ⅲ遺跡 周辺の主な遺跡一覧表



第2図 杉の上Ⅲ遺跡 周辺の主な遺跡位置図 (1:40,000)

2 調査の概要

(1) 調査に至る経過

東北本線及び東北新幹線に架かる人道跨線橋の解体撤去工事に伴う緊急発掘調査である。その敷地内に本遺跡が存在することから、緊急発掘調査を実施することとなったものである。紫波町長より紫波町教育委員会へ協議があり、平成29年5月15日付で文化財保護法第94条第1項による埋蔵文化財発掘通知が提出された。紫波町長の依頼を受け平成29年6月16日に試掘調査を実施したところ、遺構・遺物が発見されたため、平成29年7月4日付で岩手県教育委員会から工事着手前の発掘調査の実施について勧告があり、平成29年7月17日より記録保存（緊急発掘調査）に着手した。

(2) 第2次調査の概要

位 置 JR東北本線紫波中央駅から北に約1.3km地点の鉄道路線東側8mの地点。調査範囲は、南北33m・東西26mを調査した。

検出遺構 SI-01 竪穴住居跡1棟、SK-01～SK-13 土坑跡13基、P01～P14 柱穴14口。

出土遺物 縄文土器 深鉢、石器、石製品、あかやき土器 坏・甕、播鉢など。



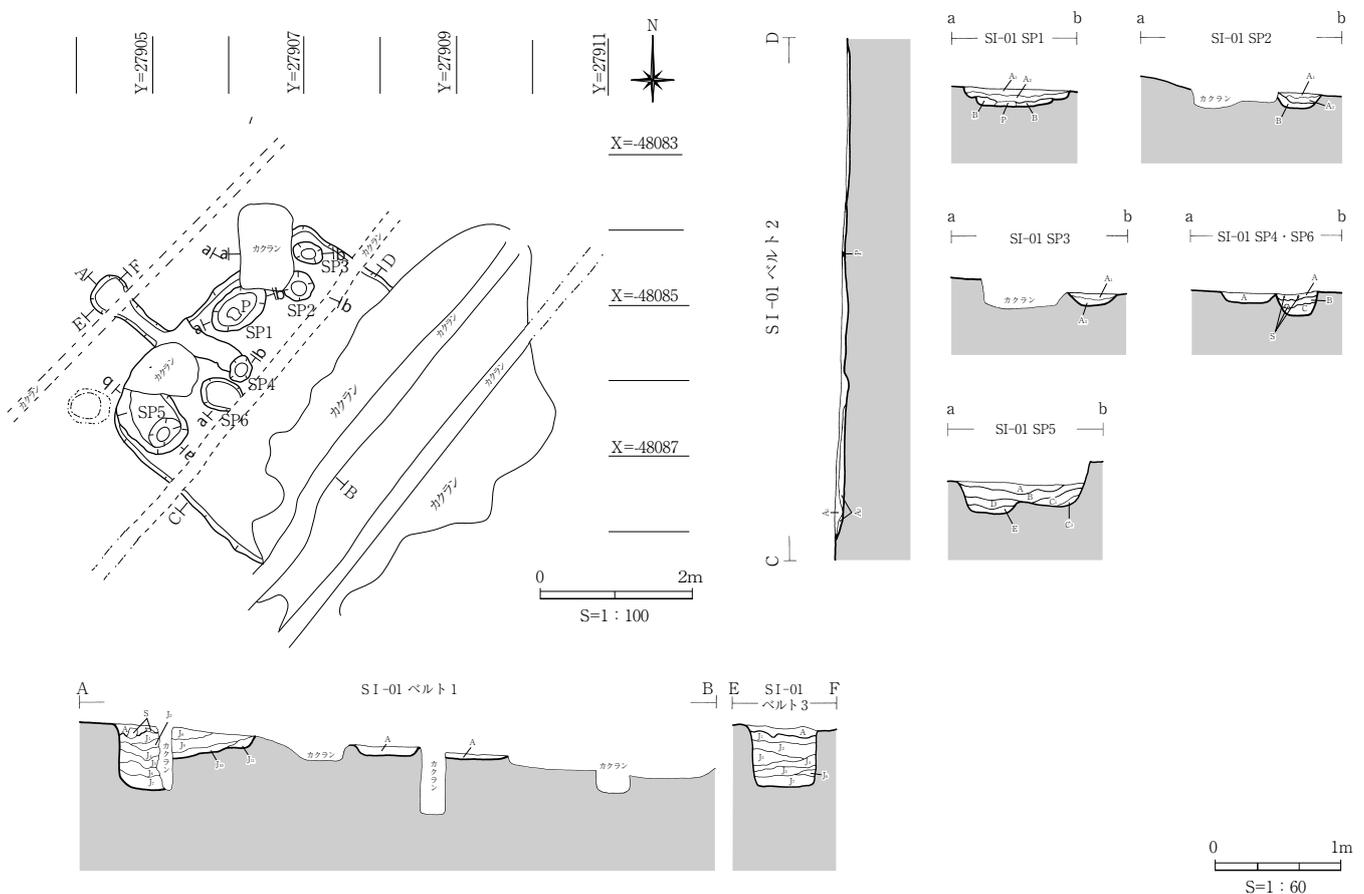
第3図 杉の上Ⅲ遺跡 第2次調査 遺構配置図 (1:300)

3 調査の成果

(1) 検出遺構

SI-01 竪穴住居跡 (第4図)

位置	調査区南側	平面形	隅丸方形	重複関係	攪乱に切られる	主軸方向	W43° N
掘込面	削平	検出面	明黄褐色シルト層	規模	上端 2.73m ~ 3.75m、下端 2.68m ~ 3.61m。		
埋土	自然堆積で A 層は 2 層に細分する。A1 層は暗褐色を主体に褐色を粉~粒状に締まりは中でカーボン含む。A2 層は、暗褐色を主体に黄褐色を粉~粒状に締まりは中。カーボン含む。						
壁の状況	検出面から床面までの深さは 0.02m ~ 0.07m で壁は外傾して立ち上がる。						
床の状況	ほぼ平坦。褐色シルト層を床面としている。						
カマド	北西壁に構築されている。煙道は溝状で壁から徐々に深くなり、煙出し底面が最も深くなる。煙道の長さは 1.11m、幅 0.42m をはかる。左カマドそでは攪乱で壊され右カマドそでは削平が著しく長さ 1.17m、幅 0.32m で上面は削平が著しい。火床面は長径 0.55m、短径 0.48m、深さ 0.08m の不整楕円形で焼けている。カマド崩壊土 (J 層) は焼土交じりの暗褐色土。煙出しは楕円形で、長軸 0.54m・短軸 0.36m で検出面からの深さは 0.52m をはかる。						
ピット	床面から 6 口検出された。SP2・SP3・SP4 は柱穴である。規模は上端 0.37m ~ 0.41m、深さ 0.09m ~ 0.19m をはかる。SP1・SP5 は貯蔵穴である。規模は上端 0.56m ~ 0.84m、深さ 0.14m ~ 0.26m をはかる。SP6 は火床面である。規模は上端 0.48m、深さ 0.09m をはかる。						
出土遺物	あかやき土器 坏						



第4図 SI-01 竪穴住居跡 平面図・断面図 (1:100、1:60)

SK-01 土坑跡 (第5図)

位 置 調査区南西隅 平面形 不整形 重複関係 なし
掘込面 削平 検出面 黄褐色シルト層
規 模 上端 0.71m～0.86m、下端 0.61m～0.72m。
埋 土 A層～E層に大別し、D層は2層に細分する。A層・C層・D層は黒色土～褐色土、B層・E層は黄褐色土～明黄褐色土を主体とする。
壁の状況 検出面から底面までの深さは、0.37mをはかり、緩やかに立ち上がる。
底面の状況 ほぼ平坦 出土遺物 なし

SK-02 土坑跡 (第5図)

位 置 調査区南東 平面形 不整形 重複関係 なし
掘込面 削平 検出面 黄褐色シルト層
規 模 上端 0.58m～0.70m、下端 0.46m～0.48m。
埋 土 A層～E層に大別し、B層は2層に細分する。A層・C層・E層はにぶい黄褐色土～明黄褐色土、B層・D層は黒褐色土～暗褐色土を主体とする。
壁の状況 検出面から底面までの深さは、0.32mをはかり、緩やかに立ち上がる。
底面の状況 ほぼ平坦 出土遺物 なし

SK-03 土坑跡 (第5図)

位 置 調査区南東 平面形 不整形 重複関係 なし
掘込面 削平 検出面 黄褐色シルト層
規 模 上端 0.63m～0.65m、下端 0.44m～0.46m。
埋 土 A層～D層に大別し、A層は2層に細分する。A層～C層は黒褐色土～褐色土、D層は明黄褐色土を主体とする。
壁の状況 検出面から底面までの深さは、0.21mをはかり、緩やかに立ち上がる。
底面の状況 ほぼ平坦 出土遺物 なし

SK-04 土坑跡 (第5図)

位 置 調査区南東 平面形 不整形 重複関係 なし
掘込面 削平 検出面 黄褐色シルト層
規 模 上端 0.59m～0.61m、下端 0.38m～0.40m。
埋 土 A層～C層に大別し、A層は2層に細分する。A層・C層は黒色土～褐色土、B層は黄褐色土を主体とする。
壁の状況 検出面から底面までの深さは、0.17mをはかり、緩やかに立ち上がる。
底面の状況 ほぼ平坦 出土遺物 なし

SK-05 土坑跡 (第6図)

位置 調査区南東 平面形 不整円形 重複関係 なし
掘込面 削平 検出面 黄褐色シルト層
規模 上端 0.73m ~ 0.75m、下端 0.48m ~ 0.50m。
埋土 A層 ~ E層に大別し、A層は2層に細分する。A層・C層は黒褐色土 ~ 褐色土、B層 ~ D層・E層は、にぶい黄褐色土 ~ 明黄褐色土を主体とする。
壁の状況 検出面から底面までの深さは、0.19mをはかり、緩やかに立ち上がる。
底面の状況 ほぼ平坦 出土遺物 なし

SK-06 土坑跡 (第6図)

位置 調査区南東 平面形 不整長方形 重複関係 なし
掘込面 削平 検出面 黄褐色シルト層
規模 上端 0.57m ~ 1.18m、下端 0.43m ~ 0.98m。
埋土 A層 ~ I層に大別し、A層・B層・C層は2層に細分する。A層・E層・G層は黒褐色土 ~ 褐色土、B層 ~ D層・F層・H層・I層はにぶい黄褐色土 ~ 明黄褐色土を主体とする。
壁の状況 検出面から底面までの深さは、0.47mをはかり、ほぼ垂直に立ち上がる。
底面の状況 ほぼ平坦 出土遺物 なし

SK-07 土坑跡 (第6図)

位置 調査区南西 平面形 不整楕円形 重複関係 攪乱に切られる
掘込面 削平 検出面 黄褐色シルト層
規模 上端 0.48m ~ 1.05 m、下端 0.41m ~ 0.98m。
埋土 A層で2層に細分する。A層は黒褐色土を主体とする。
壁の状況 検出面から底面までの深さは、0.18mをはかり、緩やかに立ち上がる。
底面の状況 ほぼ平坦 出土遺物 石製品 (敲石)

SK-08 土坑跡 (第6図)

位置 調査区中央 平面形 不整円形 重複関係 なし
掘込面 削平 検出面 黄褐色シルト層
規模 上端 0.59m ~ 0.73m、下端 0.31m ~ 0.38m。
埋土 A層 ~ J層に大別し、I層は2層に細分する。A層・E層 ~ G層・I層は黒褐色土、B層 ~ D層・H層・J層はにぶい黄褐色土 ~ 明黄褐色土を主体とする。
壁の状況 検出面から底面までの深さは、0.74mをはかり、ほぼ垂直に立ち上がる。
底面の状況 ほぼ平坦 出土遺物 なし

SK-09 土坑跡 (第6図)

位置	調査区北東	平面形	不整長方形	重複関係	なし
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層		
規模	上端 1.04m ~ 1.98m、下端 0.78m ~ 1.73m。				
埋土	A層 ~ R層に大別し、A層・C層・D層・H層・I層・K層・O層・P層は2層に細分する。A層・J層・K層は暗褐色土 ~ 褐色土、B層 ~ I層・N層 ~ P層は、にぶい黄褐色土 ~ 明黄褐色土、L層・M層・Q層・R層は橙色土 ~ 明赤褐色土を主体とする。				
壁の状況	検出面から底面までの深さは、0.89mをはかり、ほぼ垂直に立ち上がる。				
底面の状況	ほぼ平坦	出土遺物	なし		

SK-10 土坑跡 (第7図)

位置	調査区北西	平面形	不整楕円形	重複関係	なし
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層		
規模	上端 0.91m ~ 2.38m、下端 0.57m ~ 1.47m。				
埋土	A層 ~ G層に大別し、B層・E層は2層に細分する。A層・B層・D層 ~ F層は黒褐色土 ~ 褐色土、C層・G層は、にぶい黄褐色土 ~ 明黄褐色土を主体とする。				
壁の状況	検出面から底面までの深さは、0.34mをはかり、緩やかに立ち上がる。				
底面の状況	ほぼ平坦	出土遺物	なし		

SK-11 土坑跡 (第7図)

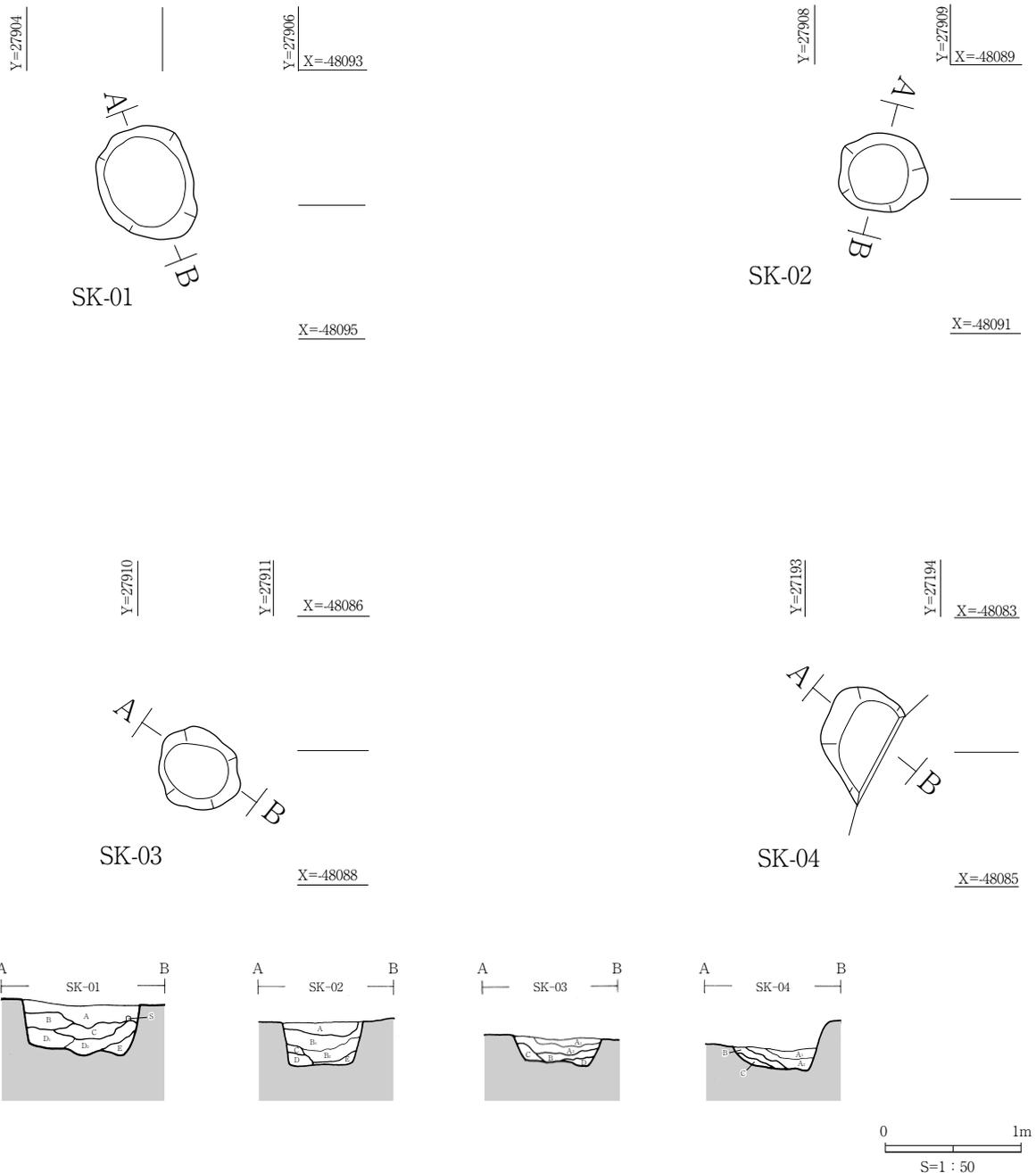
位置	調査区北西	平面形	不整楕円形	重複関係	なし
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層		
規模	上端 1.15m ~ 1.99m、下端 0.57m ~ 1.24m。				
埋土	A層 ~ H層に大別し、A層・B層・E層は2層に細分する。A層 ~ C層・E層・F層・H層は黒褐色土 ~ 褐色土、D層・G層は、にぶい黄褐色土 ~ 明黄褐色土を主体とする。				
壁の状況	検出面から底面までの深さは、0.52mをはかり、緩やかに立ち上がる。				
底面の状況	ほぼ平坦	出土遺物	なし		

SK-12 土坑跡 (第7図)

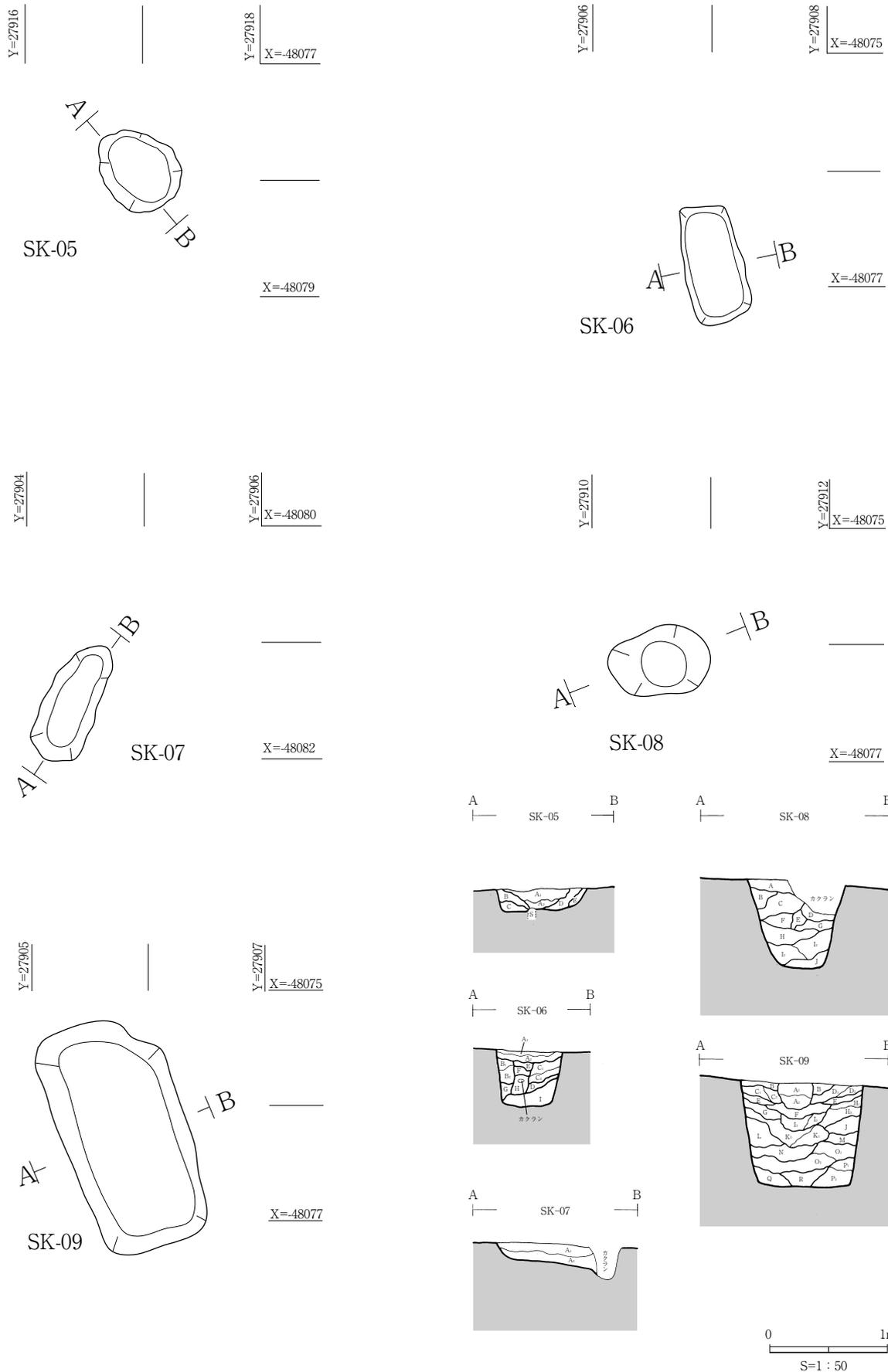
位置	調査区北東	平面形	不整長方形	重複関係	なし
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層		
規模	上端 0.93m ~ 1.98m、下端 0.69m ~ 1.78m。				
埋土	A層 ~ G層に大別し、A層・C層・G層は2層に細分する。A層、D層、F層はにぶい黄褐色土 ~ 明黄褐色土、B層・C層・G層は黒褐色土 ~ 褐色土、E層は明赤褐色土を主体とする。				
壁の状況	検出面から底面までの深さは、0.87mをはかり、ほぼ垂直に立ち上がる。				
底面の状況	ほぼ平坦	出土遺物	木材		

SK-13 土坑跡 (第7図)

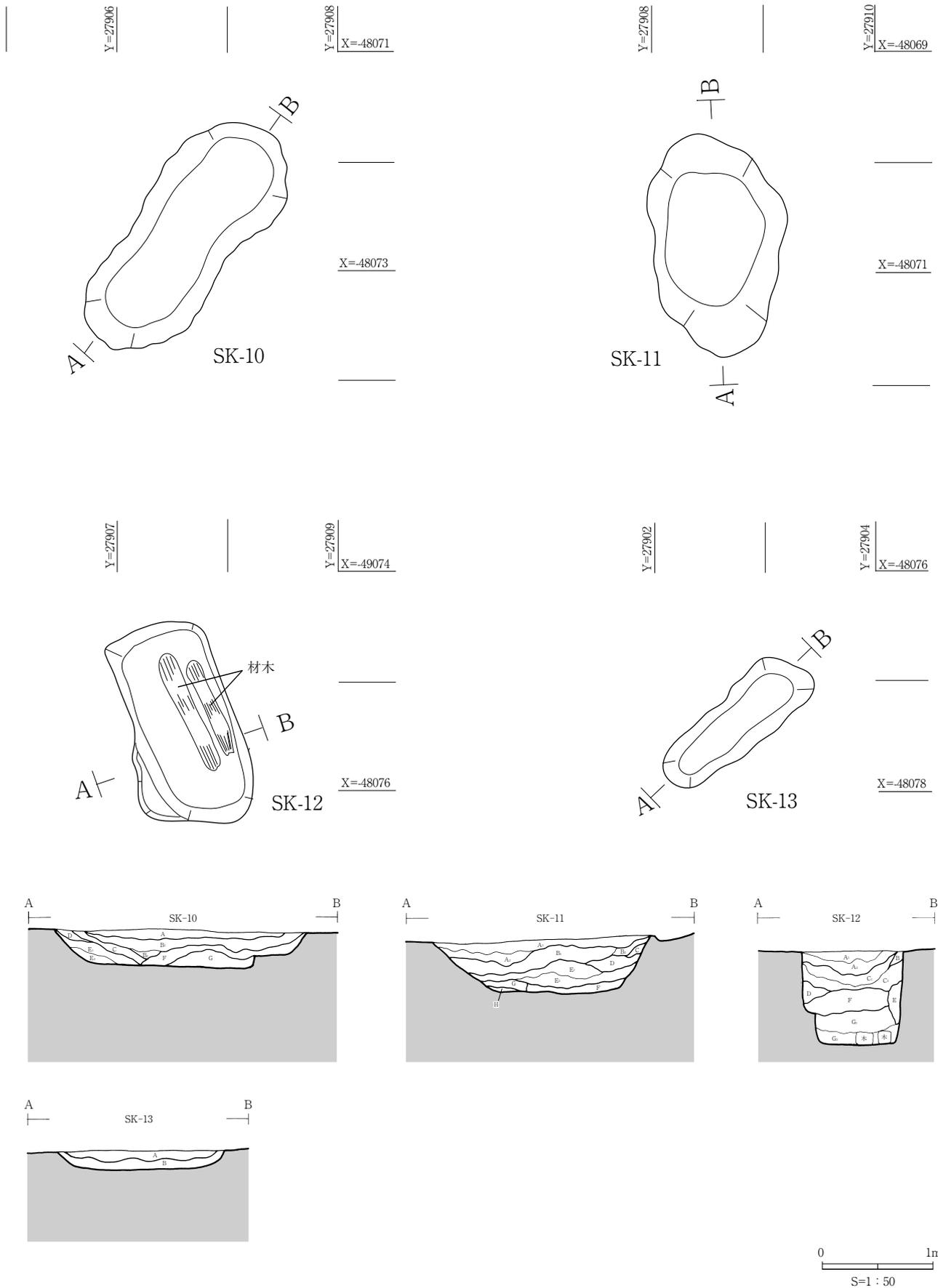
位置 調査区北東 平面形 不整長方形 重複関係 なし
 掘込面 削平 検出面 黄褐色シルト層
 規模 上端 0.68m ~ 1.53m、下端 0.36m ~ 1.38m。
 埋土 A層・B層に大別する。A層は暗褐色土、B層は黄褐色土を主体とする。
 壁の状況 検出面から底面までの深さは、0.18mをはかり、緩やかに立ち上がる。
 底面の状況 ほぼ平坦 出土遺物 なし



第5図 SK-01 ~ SK-04 土坑跡 平面図・断面図 (1:50)



第6図 SK-05 ~ SK-09 土坑跡 平面図・断面図 (1:50)



第7図 SK-10～SK-13土坑跡 平面図・断面図 (1:50)

SK-01 土坑跡

A層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B層	黄褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C層	褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
D1層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D2層	黒褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
E層	明黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

SK-02 土坑跡

A層	にぶい黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。カーボン含む。
B1層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B2層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C層	明黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
D層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
E層	黄褐色土を主体に、褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

SK-03 土坑跡

A1層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
A2層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B層	褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D層	明黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

SK-04 土坑跡

A1層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
A2層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B層	黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは中～硬。小礫含む。
C層	褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中～硬。小礫含む。

SK-05 土坑跡

A1層	褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。カーボン含む。
A2層	褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B層	明黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
C層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
D層	にぶい黄褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中～硬。小礫含む。
E層	明黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

SK-06 土坑跡

A1層	褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中～硬。カーボン含む。
A2層	褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中～硬。小礫含む。
B1層	明黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは中。小礫含む。
B2層	明黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。小礫含む。
C1層	にぶい黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C2層	にぶい黄褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D層	黄褐色土を主体に、褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
E層	褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。小礫含む。
F層	にぶい黄褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
G層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
H層	にぶい黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
I層	明黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

SK-07 土坑跡

A1層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
A2層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

SK-08 土坑跡

A層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中～硬。カーボン含む。
B層	黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中～硬。小礫含む。
C層	にぶい黄褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D層	黄褐色土を主体に、黒褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
E層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
F層	褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
G層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
H層	にぶい黄褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
I1層	黒褐色土を主体に、褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
I2層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
J層	明黄褐色土を主体に、暗褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

表2 SK-01～SK-08 土坑跡 埋土注記一覧表

SK-09 土坑跡

A1層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中～硬。カーボン含む。
A2層	暗褐色土を主体に、褐色土を粒状～塊状に締まりは中～硬。カーボン含む。
B層	にぶい黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中～硬。カーボン含む。
C1層	明黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。カーボン含む。
C2層	明黄褐色土を主体に、褐色土を粒状～塊状に締まりは中～硬。
D1層	黄褐色土を主体に、暗褐色土を粒状～塊状に締まりは中～硬。小礫含む。
D2層	黄褐色土を主体に、褐色土を粒状～塊状に締まりは中～硬。小礫含む。
E層	明黄褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
F層	にぶい黄褐色土を主体に、明赤色土を粒状～塊状に締まりは中～硬。小礫含む。
G層	明黄褐色土を主体に、橙色土を粒状～塊状に締まりは中。
H1層	にぶい黄褐色土を主体に、褐色土を粒状～塊状に締まりは中～硬。小礫含む。
H2層	にぶい黄褐色土を主体に、橙色土を粒状～塊状に締まりは中～硬。小礫含む。
I1層	黄褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中～硬。
I2層	黄褐色土を主体に、明赤色土を粒状～塊状に締まりは中～硬。
J層	褐色土を主体に、橙色土を粒状～塊状に締まりは中～硬。小礫含む。
K1層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
K2層	暗褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
L層	橙色土を主体に、褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
M層	明赤褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
N層	にぶい黄褐色土を主体に、橙色土を粒状～塊状に締まりは中。
O1層	明黄褐色土を主体に、にぶい橙色土を粒状～塊状に締まりは中。
O2層	明黄褐色土を主体に、にぶい赤褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
P1層	黄褐色土を主体に、褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
P2層	黄褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中～硬。
Q層	橙色土を主体に、褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
R層	明赤褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

SK-10 土坑跡

A層	黒褐色土を主体に、褐色土を粒状～塊状に締まりは中。カーボン含む。
B1層	暗褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B2層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C層	にぶい黄褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
E1層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
E2層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
F層	褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
G層	明黄褐色土を主体に、暗褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

SK-11 土坑跡

A1層	褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。カーボン含む。
A2層	褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。カーボン含む。
B1層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B2層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C層	黒色土を主体に、褐色土を粒状～塊状に締まりは中～軟。
D層	にぶい黄褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
E1層	黒褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
E2層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
F層	褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
G層	明黄褐色土を主体に、暗褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
H層	黒褐色土を主体に、暗褐色土を粒状～塊状に締まりは中～軟。

SK-12 土坑跡

A1層	にぶい黄褐色土を主体に、暗褐色土を粒状～塊状に締まりは中～硬。カーボン含む。
A2層	にぶい黄褐色土を主体に、暗褐色土を粒状～塊状に締まりは中～硬。カーボン含む。
B層	褐色土を主体に、橙色土を粒状～塊状に締まりは硬。小礫含む。
C1層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。小礫含む。
C2層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。小礫含む。
D層	明黄褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。小礫含む。
E層	明赤褐色土を主体に、褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
F層	にぶい黄褐色土を主体に、にぶい橙色土を粒状～塊状に締まりは中。
G1層	黒褐色土を主体に、明赤褐色土を粒状～塊状に締まりは中～軟。
G2層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中～軟。

SK-13 土坑跡

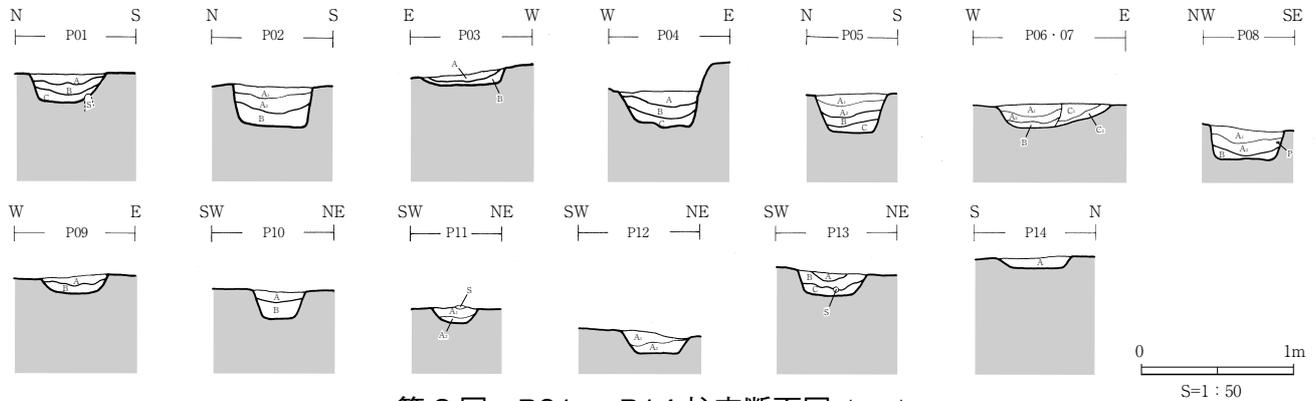
A層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B層	黄褐色土を主体に、褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

表3 SK-09～SK-13 土坑跡 埋土注記一覧表

P01～P14 柱穴 (第8図)

柱穴は14口検出した。また、明確な柱痕跡をのこすものはなかった。埋土は黒褐色土・暗褐色土を主体になるものが多い。各柱穴の深さは次の通りである。

P01-0.19m P02-0.25m P03-0.09m P04-0.34m P05-0.26m P06-0.17m P07-0.14m P08-0.23m
 P09-0.12m P10-0.18m P11-0.11m P12-0.15m P13-0.15m P14-0.07m



第8図 P01～P14 柱穴断面図 (1:50)

(2) 出土遺物 (第9図)

今回の調査では、土師器・縄文土器・石器・石製品・その他をコンテナ 1/3 箱が出土した。その内の8点を拓本及び実測図化し掲載した。

1) あかやき土器 坏・甕

SI-01 竪穴住居跡から1点で口～底部。1はロクロ成形で、回転糸切再調整を施す。規模は口径13.8cm、器高4.9cmをはかり、底部からやや丸味をもって立ち上がる。全体的に薄く形成され器高が高い。胎土は石英粒などを多く含みザラつく。内外面口縁部付近に炭化物が付着する。調査区北西付近の検出面から甕1点。2は非ロクロ成形で、口頸部は短く強く外反する。口縁部内外面ヨコナデで、体部は磨滅が著しく、調整痕は不明瞭である。

2) 縄文土器 深鉢

P02・P06 から各1点で体部。3はL・R縄による単軸絡条体を横位に回転施文する。4は縄文LRが横位に回転施文する。

3) 石器・石製品

削器がP03から1点・検出面から1点。5・6は片面調整石器で材質は頁岩である。砥石がカクランから1点。2/3ほど欠損しているが、両面に使用痕が認められ、浅いU字状に削られている。材質は粘板岩である。石製品(敲石)がSK-07から1点。側縁及び凸面に敲き痕が認められる。

あかやき土器 坏・甕

番号	遺構名	出土位置	器種名	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率 (%)	備考
1	SI-01 内 SP1	B層	坏	13.8	7.1	4.9	80	回転糸切再調整。口唇部カーボン付着。
2	—	検出面	甕	17.8	—	—	10	口縁部ヨコナデ。

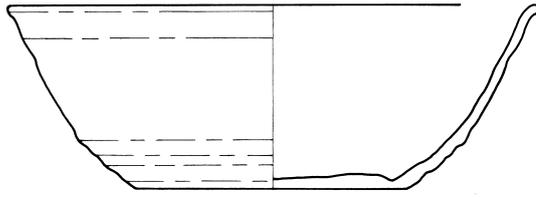
縄文土器 深鉢

番号	遺構名	出土位置	器種名	口径 (cm)	底径 (cm)	長さ (cm)	厚さ (cm)	備考
3	P02	A層	深鉢	—	—	4.5	0.7	L・R縄 回転施文する。
4	P06	A層	深鉢	—	—	5.2	0.9	縄文LR 回転施文する。

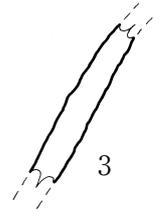
石器・石製品

番号	遺構名	出土位置	器種名	長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)	備考
5	P03	A層	削器	3.9	1.1	15	頁岩製。
6	—	検出面	削器	4.1	1.4	16	頁岩製。
7	—	カクラン	砥石	4.9	1.2	70	粘板岩製。
8	SK-07	A層	敲石	8.9	3.3	315	多孔質安山岩製。

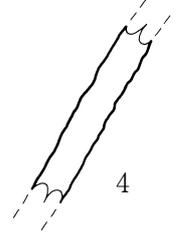
表4 出土遺物一覧表



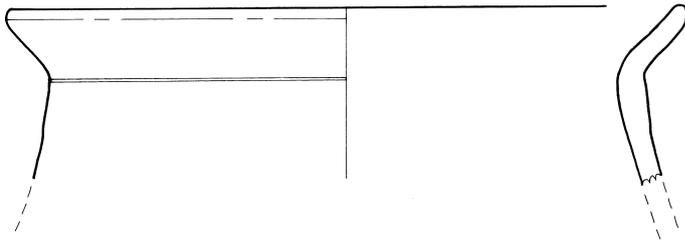
1



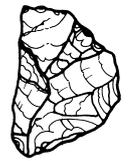
3



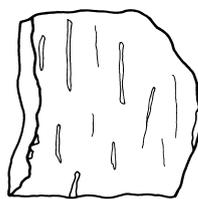
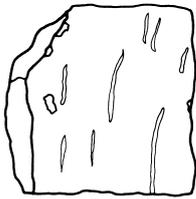
4



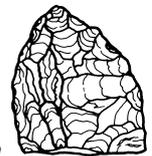
2



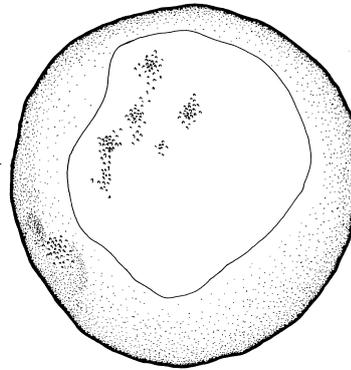
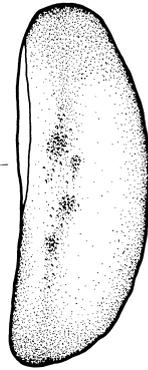
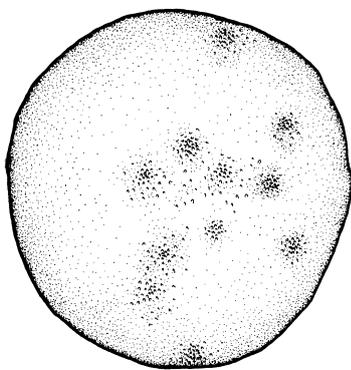
5



7



6



8

第9図 出土遺物 (1:2)

4 まとめ

杉の上Ⅲ遺跡 第2次調査では、竪穴住居跡1棟、土坑跡13基、柱穴14口を検出した。遺物は縄文土器、石器、石製品、あかやき土器 坏・甕、その他などが出土している。

・竪穴住居跡

SI-01は調査区南側から検出した。隅丸方形の竪穴住居跡である。遺構の上層は後世により削平と遺構の南側が攪乱で壊されているが、全体の約1/3が残存する。規模は一辺約3.64mをはかり、中型に分類される。埋土状況はA層からB層の2層に大別される。カマドは北西側に構築されている。カマド右袖付近の柱穴SP1の底面からあかやき土器 坏が出土している。出土遺物から構築された時代は平安時代と考えられる。

・土坑跡

SK-01～SK-05・SK-08は不整円形、SK-06・SK-09・SK-12・SK-13は不整長方形、SK-07・SK-10・SK-11は不整楕円形を形状とする。SK-07のA層から縄文時代に使われていたと思われる敲石が出土したが、流れ込みの可能性が高い。その他の土坑跡内からは遺物は発見できず、構築された時代及び使用目的は不明である。

昭和48年に岩手県教育委員会が東北新幹線開通工事に伴う発掘調査を実施している。その調査でも、古代の竪穴住居跡4棟を検出し、遺物は、あかやき土器、土師器、須恵器、縄文土器、石器などが発見されており、今回の調査でも類似する遺構及び遺物を発見している。以上の事から、同じ集落に属するものと推測され、集落の範囲がさらに東に延びていることが確認出来た。また、本調査区北側及び北東斜面も同じような地形をしており、遺構が存在する可能性が高いと思われる。集落の広がりを知るためにも、今後の調査に期待したい。

〈引用・参考文献〉

- 1972 紫波町 「紫波町史」 第1巻
- 1978 岩手県教育委員会 「東北新幹線関係埋蔵文化財報告書-Ⅲ-」
- 1994 盛岡市教育委員会 「上平遺跡群 上平遺跡 一第4次発掘調査概報(石器)一」
- 1996 盛岡市教育委員会 「繫遺跡 一平成7年度発掘調査概報一」
- 2000 盛岡市教育委員会 「盛岡市内遺跡群 一平成11年度発掘調査概報一
屠牛場遺跡・志波城跡・町田遺跡・竹花遺跡・百目木遺跡」
- 2012 紫波町教育委員会 「比爪館 第30次発掘調査報告書」
- 2015 紫波町教育委員会 「町内遺跡発掘調査報告書Ⅳ」

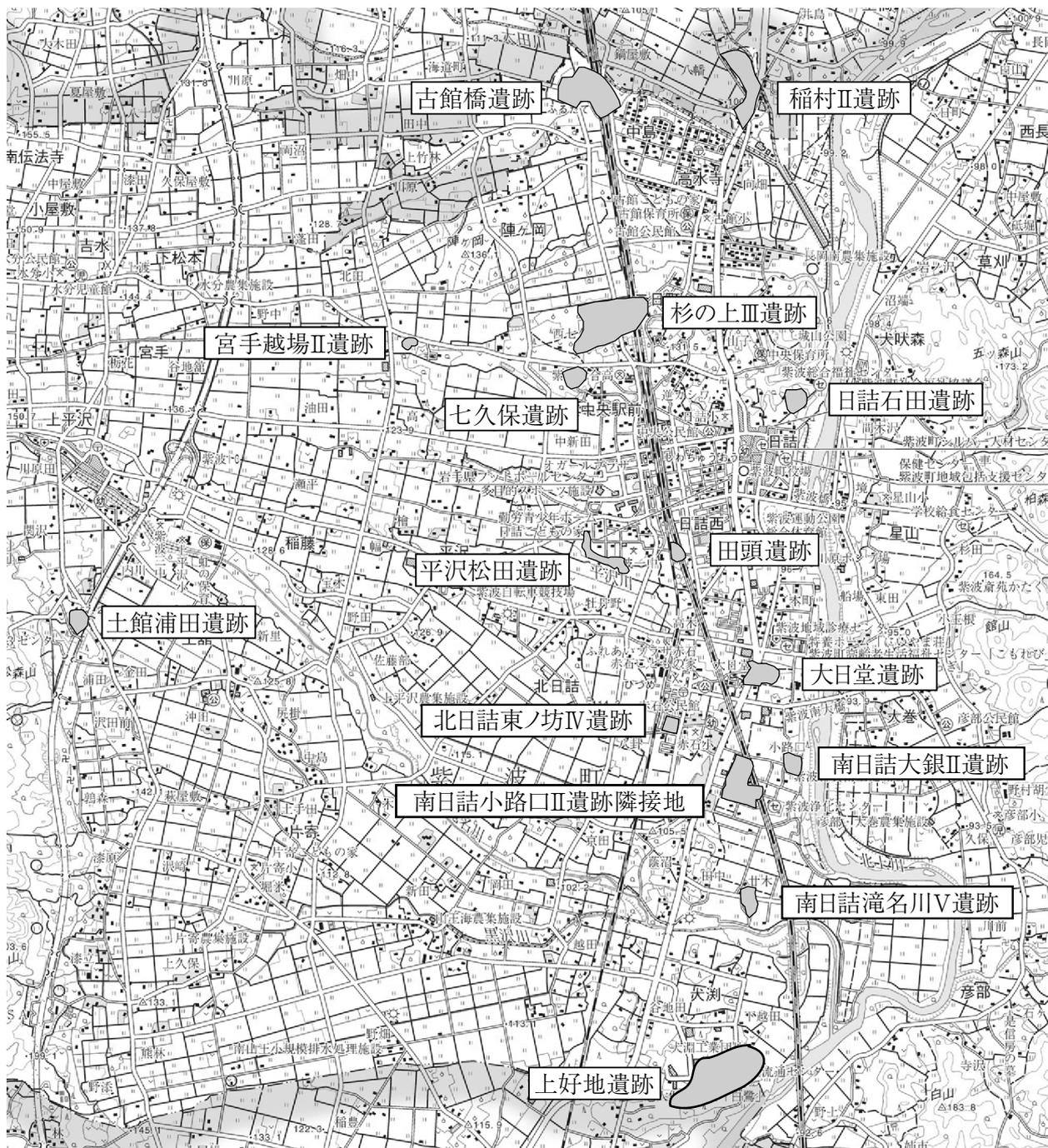
Ⅲ 町内遺跡の有無確認(平成27～29年度試掘調査)

・文化財保護法第93条

宮手越場Ⅱ遺跡、平沢松田遺跡、南日詰小路口Ⅱ遺跡隣接地、日詰石田遺跡、稲村Ⅱ遺跡、北日詰東ノ坊Ⅳ遺跡、南日詰滝名川Ⅴ遺跡、田頭遺跡、土館浦田遺跡、七久保遺跡、上好地遺跡、大日堂遺跡の12箇所

・文化財保護法第94条

南日詰大銀Ⅱ遺跡、杉の上Ⅲ遺跡、古館橋遺跡の3箇所

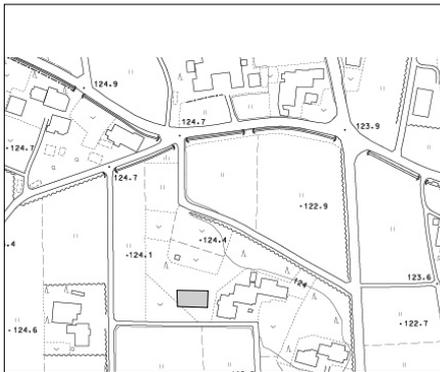


第1図 町内遺跡の有無確認 試掘調査位置図(1:40,000)

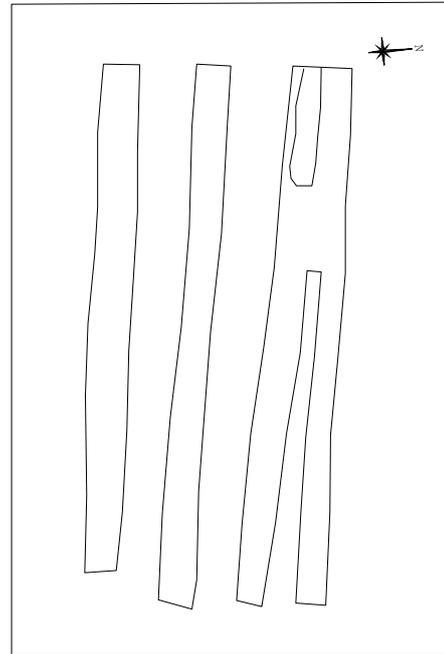
文化財保護法第 93 条

1) 宮手越場Ⅱ遺跡

遺跡コード LE66-1047
 所在地 宮手字越場地内
 調査原因 倉庫建設工事
 調査年月日 平成 28 年 1 月 25 日
 調査面積 100.8㎡
 検出遺構 溝跡
 出土遺物 なし



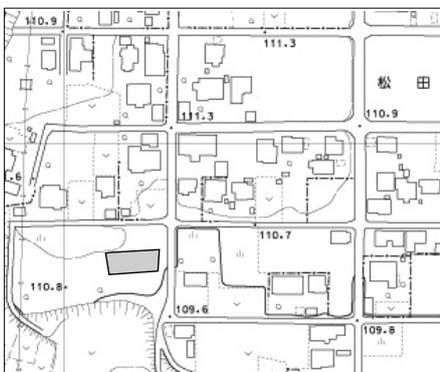
試掘調査位置図



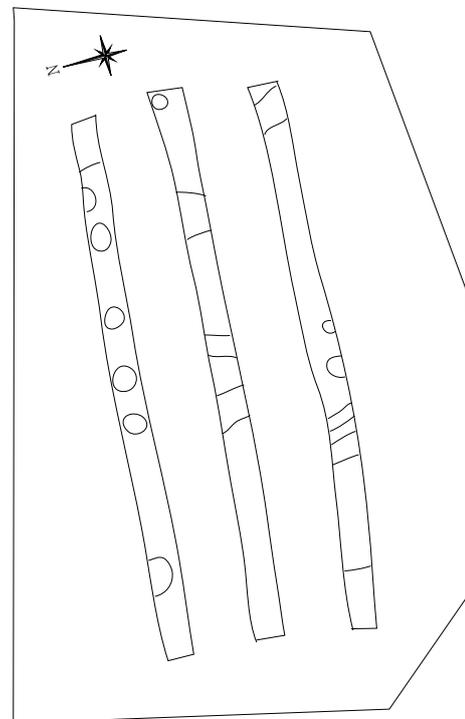
トレンチ平面実測図 (1 : 300)

2) 平沢松田遺跡

遺跡コード LE66-2337
 所在地 平沢字長尾沢地内
 調査原因 宅地造成工事
 調査年月日 平成 28 年 8 月 3 日
 調査面積 103.2㎡
 検出遺構 土坑、溝跡、柱穴
 出土遺物 なし



試掘調査位置図

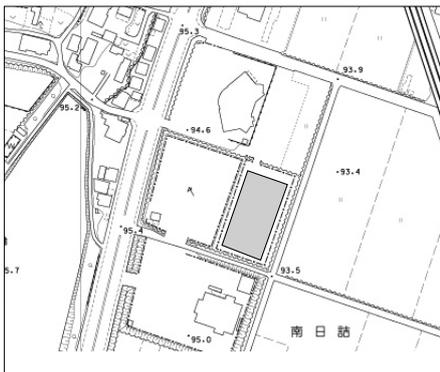


トレンチ平面実測図 (1 : 400)

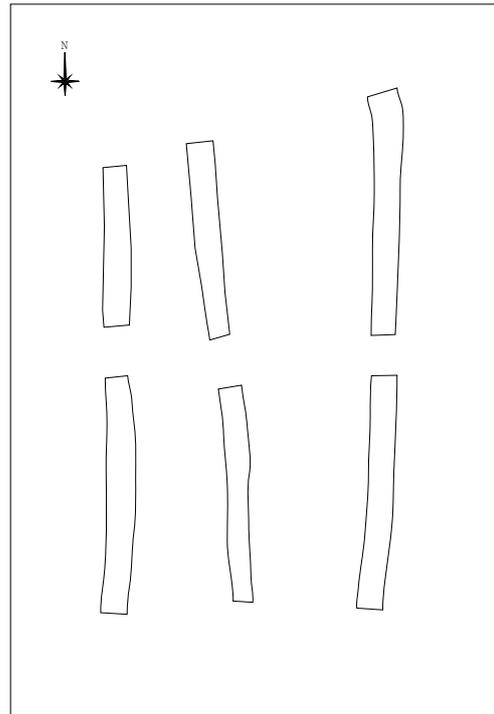
文化財保護法第 93 条 試掘調査位置図・トレンチ平面実測図①

3) 南日詰小路口Ⅱ遺跡隣接地

遺跡コード LE77-1131
 所在地 南日詰字小路口地内
 調査原因 介護施設建設工事
 調査年月日 平成 28 年 9 月 26 日
 調査面積 158.5㎡
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし



試掘調査位置図



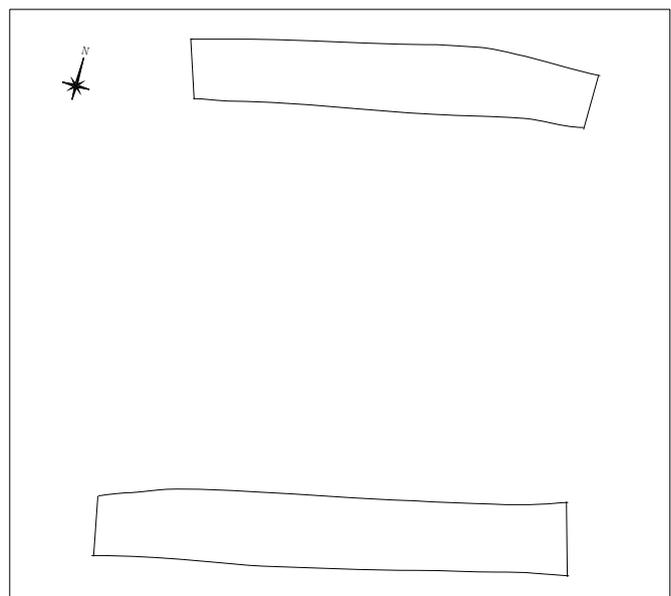
トレンチ平面実測図 (1 : 700)

4) 日詰石田遺跡

遺跡コード LE67-1114
 所在地 日詰字石田地内
 調査原因 個人住宅新築工事
 調査年月日 平成 28 年 10 月 4 日
 調査面積 20.4㎡
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし



試掘調査位置図

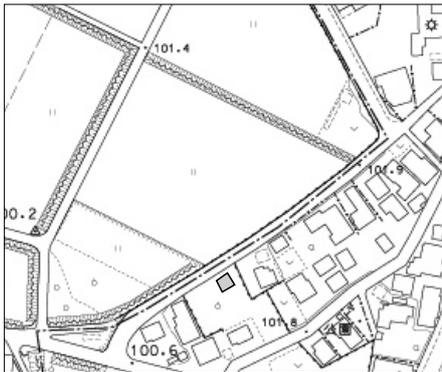


トレンチ平面実測図 (1 : 150)

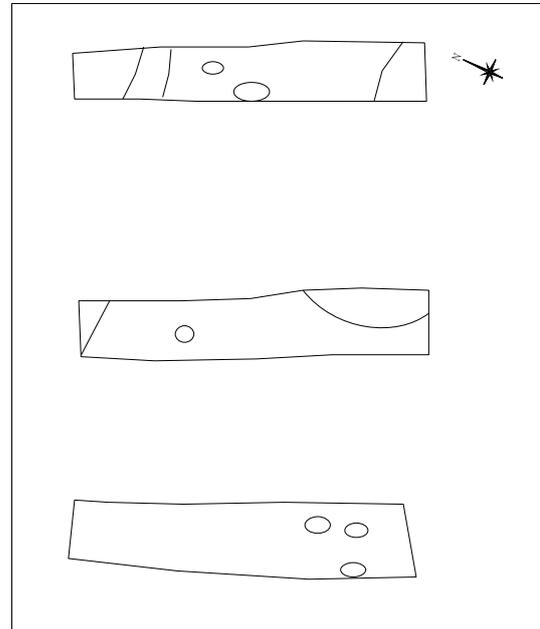
文化財保護法第 93 条 試掘調査位置図・トレンチ平面実測図②

5) 稲村Ⅱ遺跡

遺跡コード LE57-1038
 所在地 高水寺字稲村地内
 調査原因 個人住宅新築工事
 調査年月日 平成 29 年 3 月 13 日
 調査面積 22.5㎡
 検出遺構 竪穴状遺構、溝跡、柱穴
 出土遺物 なし



試掘調査位置図



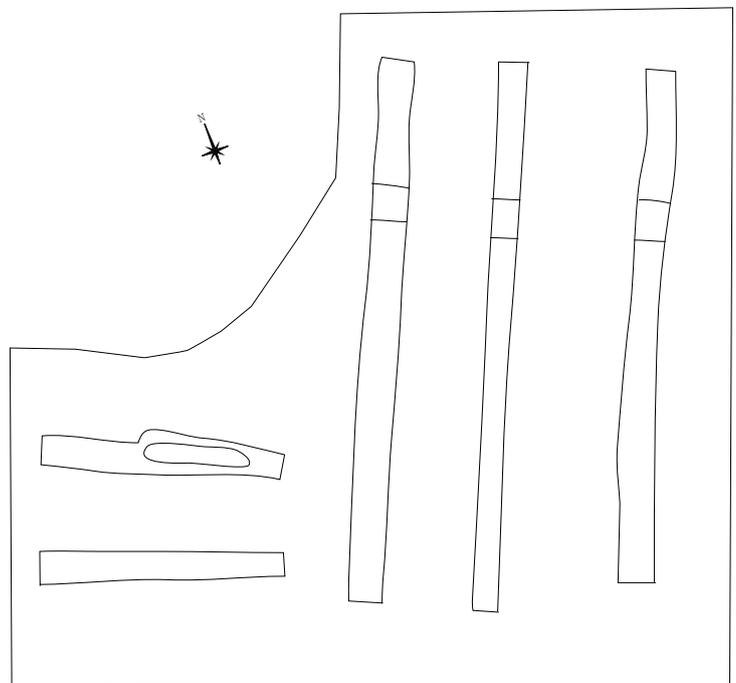
トレンチ平面実測図 (1 : 100)

6) 北日詰東ノ坊Ⅳ遺跡

遺跡コード LE77-0074
 所在地 北日詰字東ノ坊地内
 調査原因 個人住宅新築工事
 調査年月日 平成 28 年 10 月 11 日
 調査面積 120㎡
 検出遺構 溝跡
 出土遺物 なし



試掘調査位置図

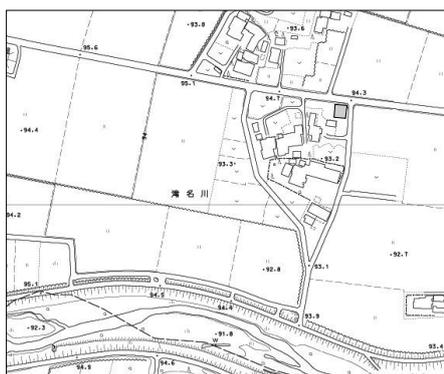


トレンチ平面実測図 (1 : 450)

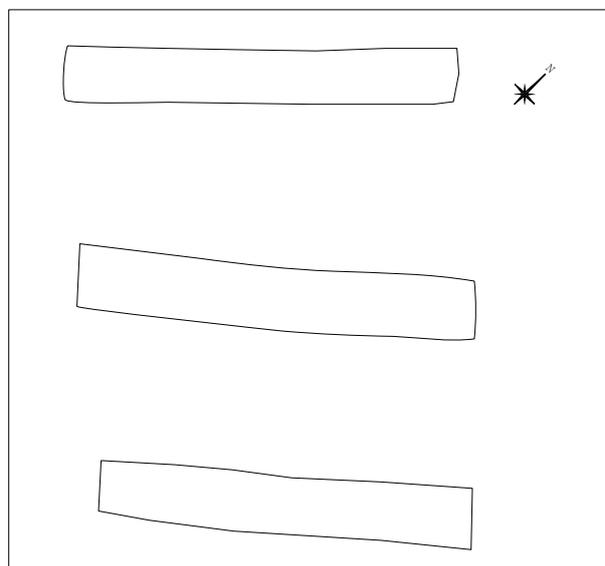
文化財保護法第 93 条 試掘調査位置図・トレンチ平面実測図③

7) 南日詰滝名川V遺跡

遺跡コード LE77-2038
 所在地 南日詰字滝名川地内
 調査原因 個人住宅新築工事
 調査日 平成 28 年 10 月 25 日
 調査面積 46.5㎡
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし



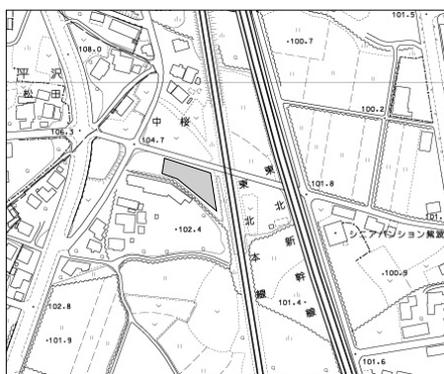
試掘調査位置図



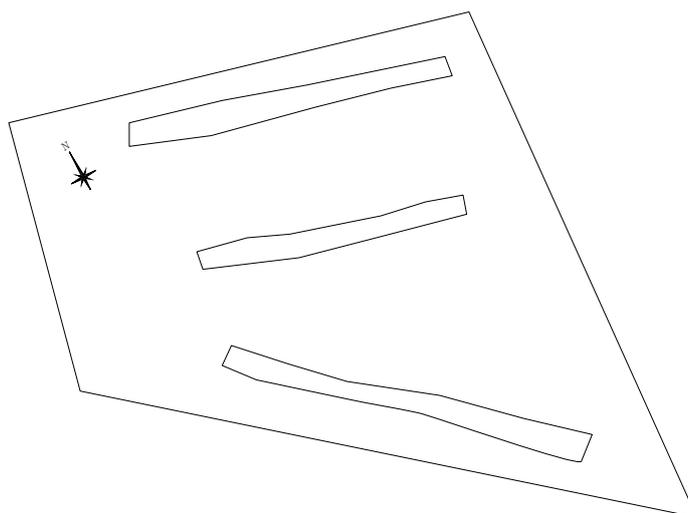
トレンチ平面実測図 (1 : 200)

8) 田頭遺跡

遺跡コード LE67-2034
 所在地 桜町字中桜地内
 調査原因 宅地造成工事
 調査年月日 平成 29 年 3 月 29 日
 調査面積 56.6㎡
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし



試掘調査位置図



トレンチ平面実測図 (1 : 400)

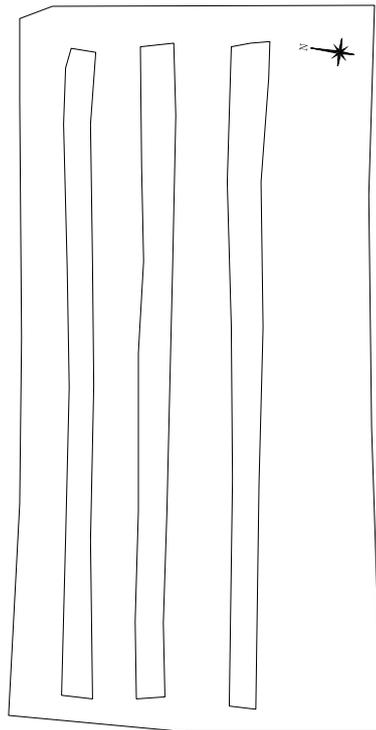
文化財保護法第 93 条 試掘調査位置図・トレンチ平面実測図④

9) 土館浦田遺跡

遺跡コード LE66-0075
 所在地 土館字浦田地内
 調査原因 個人作業所新築工事
 調査年月日 平成 29 年 3 月 22 日
 調査面積 163.2㎡
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし



試掘調査位置図



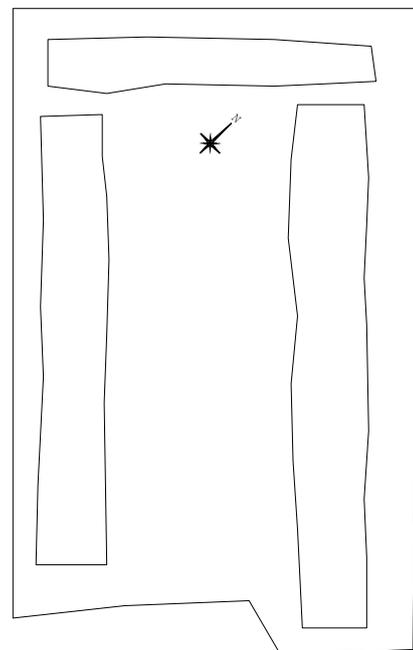
トレンチ平面実測図 (1 : 200)

10) 七久保遺跡

遺跡コード LE66-0396
 所在地 日詰字七久保地内
 調査原因 個人住宅新築工事
 調査年月日 平成 29 年 6 月 23 日
 調査面積 38.3㎡
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし



試掘調査位置図

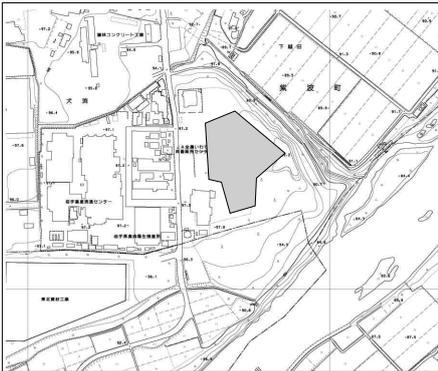


トレンチ平面実測図 (1 : 150)

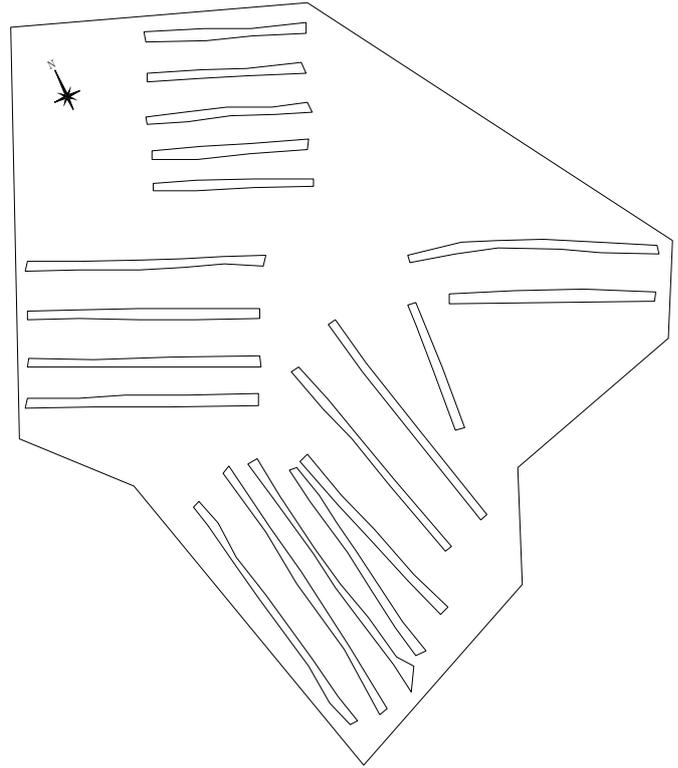
文化財保護法第 93 条 試掘調査位置図・トレンチ平面実測図⑤

11) 上好地遺跡

遺跡コード LE87 - 0068
 所在地 犬渕字南谷地地内
 調査原因 工場施設建築工事
 調査年月日 平成 28 年 11 月 15 日・16 日
 平成 29 年 5 月 16 日・18 日・19 日
 調査面積 312.15㎡、252㎡
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし



試掘調査位置図



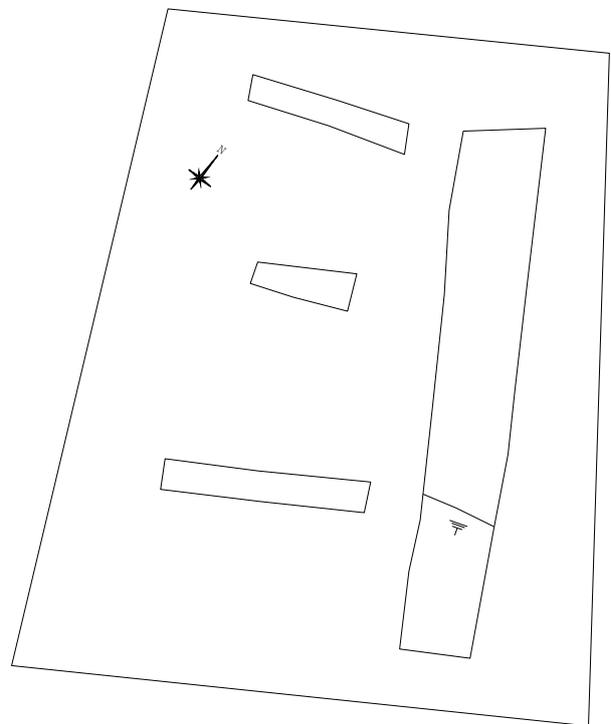
トレンチ平面実測図 (1 : 1800)

12) 大日堂遺跡

遺跡コード LE77-0131
 所在地 北日詰字下東ノ坊地内
 調査原因 事務所建築工事
 調査年月日 平成 29 年 12 月 8 日
 調査面積 21.6㎡
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし



試掘調査位置図



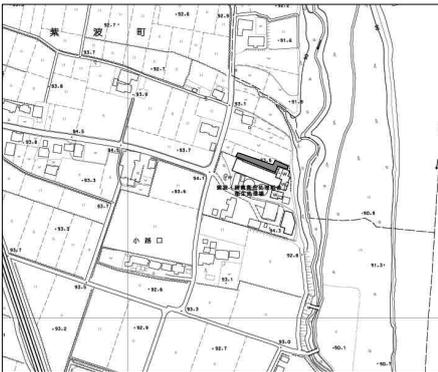
トレンチ平面実測図 (1 : 200)

文化財保護法第 93 条 試掘調査位置図・トレンチ平面実測図⑥

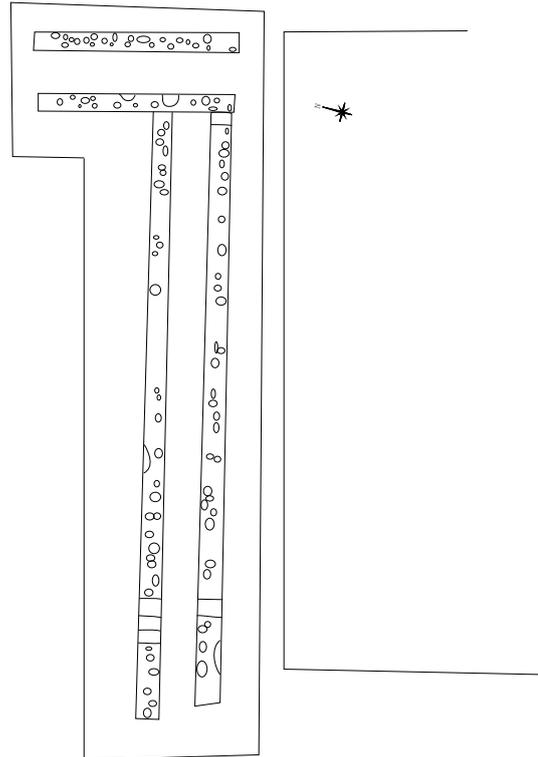
文化財保護法 94 条

1) 南日詰大銀Ⅱ遺跡

遺跡コード LE77-1104
 所在地 南日詰字小路口地内
 調査原因 し尿処理施設解体工事
 調査年月日 平成 29 年 5 月 24 日
 調査面積 144.7㎡
 検出遺構 溝跡、井戸跡、土坑跡、柱穴、その他
 出土遺物 かわらけ、国産陶器、その他



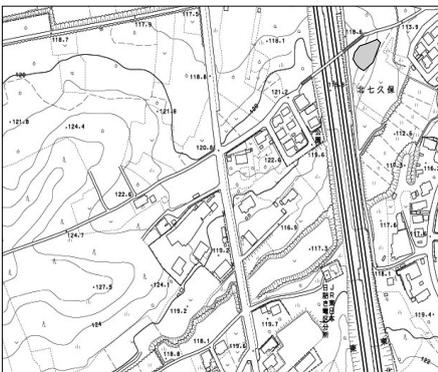
試掘調査位置図



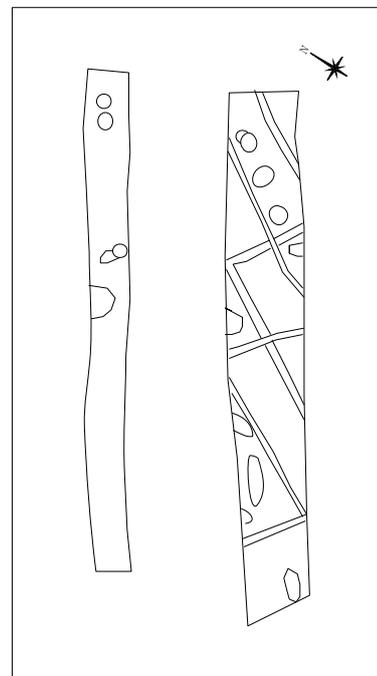
トレンチ平面実測図 (1 : 600)

2) 杉の上Ⅲ遺跡

遺跡コード LE66-0357
 所在地 二日町字北七久保地内
 調査原因 跨線人道橋の撤去に伴う作業ヤード設置
 調査年月日 平成 29 年 6 月 16 日
 調査面積 162.2㎡
 検出遺構 土坑跡・柱穴
 出土遺物 なし



試掘調査位置図

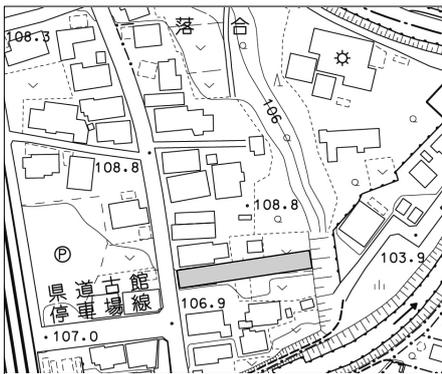


トレンチ平面実測図 (1 : 200)

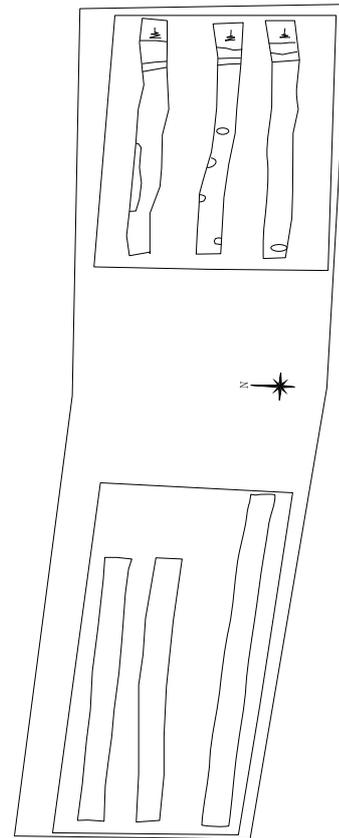
文化財保護法第 94 条 試掘調査位置図・トレンチ平面実測図⑦

3) 古館橋遺跡

遺跡コード LE56-1357
所在地 中島字落合地内
調査原因 町都市計画関連工事
調査年月日 平成 29 年 11 月 27 日
調査面積 95㎡
検出遺構 竪穴状遺構、土坑跡、溝跡



試掘調査位置図



トレンチ平面実測図 (1 : 500)

写 真 图 版



調査区全景①（西から）



調査区全景②（東から）



SI-01 断面 (東から)



SI-01 完掘 (北から)



SI-02 断面 (南から)



SI-02 完掘 (南から)



SD-01 断面 (南から)



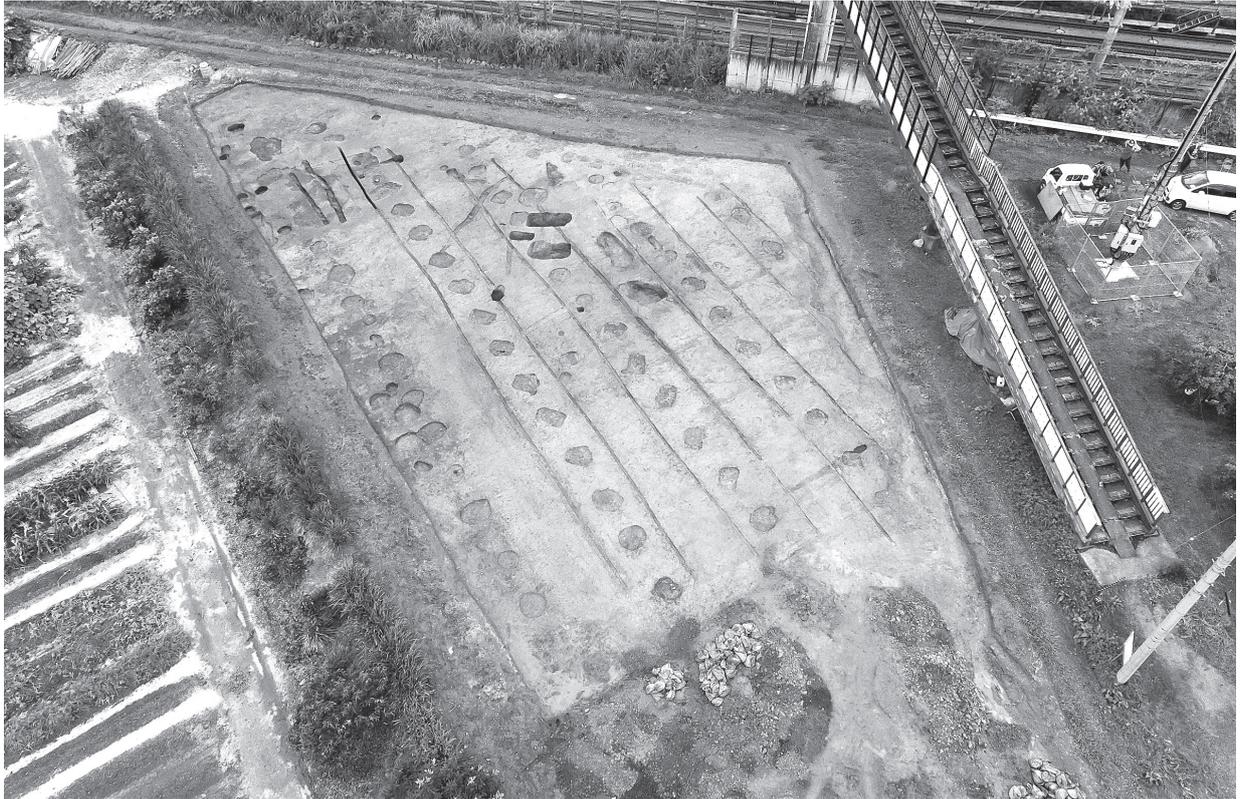
SD-01 完掘 (西から)



SI-01 検出状況 (西から)



作業風景



調査区 全景① (空撮)



調査区 全景② (空撮)



SI-01 断面 (西から)



SI-01 埋土断面 (南から)



SI-01 煙出断面 (西から)



SI-01 火床面 (西から)



SI-01 内 P-01 遺物出土状況①



SK-09 完掘 (北から)



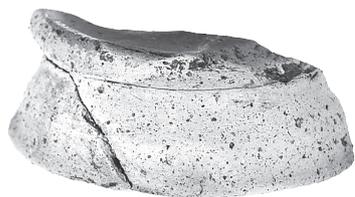
SK-12 完掘 (南から)



作業風景



1



2



3



4

日詰西遺跡 第1次調査 出土遺物



1



3



5



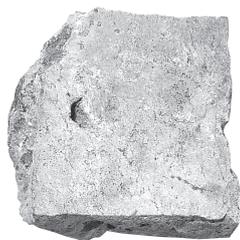
2



4



6



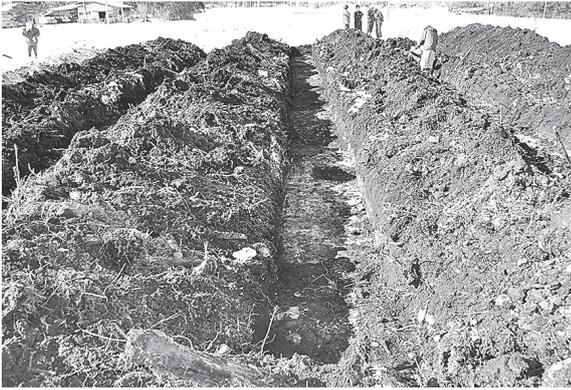
7



1

8

杉の上皿遺跡 第2次調査 出土遺物



宮手越場Ⅱ遺跡



平沢松田遺跡



南日詰小路口Ⅱ遺跡隣接地



日詰石田遺跡



稲村Ⅱ遺跡



北日詰東ノ坊Ⅳ遺跡



南日詰滝名川Ⅴ遺跡



田頭遺跡



土館浦田遺跡



七久保遺跡



上好地遺跡



大日堂遺跡



南日詰大銀Ⅱ遺跡



杉の上Ⅲ遺跡



古館橋遺跡

抄 録

ふりがな	ちょうないいせきはつくつちょうさほうこくしょご							
書名	町内遺跡発掘調査報告書V							
副書名								
巻次								
シリーズ名	岩手県紫波町文化財報告書 2017							
シリーズ番号								
編集者名	鈴木賢治							
編集機関	紫波町教育委員会							
所在地	岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前二丁目3番地1							
発刊年月日	平成30年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひづめにしいせき 日詰西遺跡	いわてけんしわぐん 岩手県紫波郡 しわちょうひづめにし 紫波町日詰西 よんちようめちない 四丁目地内		LE67-2015	39° 55' 45"	141° 9' 45"	2016.03.01 ～ 2016.03.16	139.8㎡	個人住宅新築工事に伴う緊急発掘調査
すぎうえ3いせき 杉の上Ⅲ遺跡	いわてけんしわぐん 岩手県紫波郡 しわちょうふつかまちあぎ 紫波町二日町字 きたななくぼちない 北七久保地内		LE66-0357	39° 35' 1"	141° 9' 29"	2017.07.17 ～ 2017.08.24	857㎡	跨線人道橋の撤去に係る作業ヤード設置に伴う緊急発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
ひづめにしいせき 日詰西遺跡	しゅうらくあと 集落跡	こ	だい	竪穴住居跡 1 竪穴状遺構 1 溝跡 1、土坑 1、 柱穴 41		土師器、須恵器 あかやき土器		
すぎうえ3いせき 杉の上Ⅲ遺跡	しゅうらくあと 集落跡	こ	だい	竪穴住居跡 1 土坑 13、柱穴 14		あかやき土器、須恵器 縄文土器、石器、石製品		
平成 27 ～ 29 年度町内遺跡埋蔵文化財有無確認調査								
第 93 条					第 94 条			
1) 宮手越場Ⅱ遺跡 2) 平沢松田遺跡 3) 南日詰小路口Ⅱ遺跡隣接地 4) 日詰石田遺跡 5) 稲村Ⅱ遺跡 6) 北日詰東ノ坊Ⅳ遺跡 7) 南日詰滝名川Ⅴ遺跡 8) 田頭遺跡 9) 土館浦田遺跡					10) 七久保遺跡 11) 上好地遺跡 12) 大日堂遺跡 1) 南日詰大銀Ⅱ遺跡 2) 杉の上Ⅲ遺跡 3) 古館橋遺跡			

町内遺跡発掘調査報告書Ⅴ

2018年3月

編集・発行 紫波町教育委員会
〒028-3392 岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前二丁目3番地1
TEL 019-672-2111(代) FAX 019-672-1553

印刷 川口印刷工業株式会社
〒020-0841 盛岡市羽場10-1-2
TEL 019-632-2211 FAX 019-632-2217
